

資料紹介

樺太アイヌ村落の生活および教育に関する視察復命書

田村将人

目次

【解題】

【資料】

第六号 愛奴生活状態及教育状況視察復命書（東海岸愛奴部落中主トシテ樺太愛奴部落）

土人状態調査報告書（大正二年十一月）

土人生活状態（現住戸口／収支経済／年中行事）

土人教育状況（内路土人教育所／新聞土人ノ教育）

土人教育状況報告（大正三年三月）

内路土人教育所／新聞土人教育所／

東白浦土人教育所／小田寒土人教育所／

内路土人教育所／大谷土人教育所

附録

キーワード

サハリン（樺太）アイヌ（Sakhalin(Karafuto)Ainu）、樺太庁（Karafuto Government）、先住民民族政策（Policy for Indigenous Peoples）、アイヌ教育史（History of the education for the Ainu）

【解題】

ここに翻刻して紹介する資料は、成城大学民俗学研究所所蔵資料「樺太アイヌ調査報告書／小笠原鍵「ほか」著」の中から、一九一三～一四（大正二～三）年の記録「第六号 愛奴生活状態及教育状況視察復命書（東海岸愛奴部落中主トシテ樺太愛奴部落）属 山元善八」である。樺太庁の公文書の残存状況は先住民民族政策のみならず僅少である現状において、本資料は、経緯は不明なるも、一九一四年当時は官僚だった民俗学者の柳田國男（一八七五～一九六二）の手元に残された樺太庁の公文書の複写と考えられる。現在知られている限りでは、樺太アイヌ児童を対象とした「土人教育所」の運営内容を知る、ほとんど唯一の資料である。

この「樺太アイヌ調査報告書」には六編の公文書（写し）が綴られている。その全体像に関しては、すでにその中の鳥居龍蔵の復命書の翻刻とともに紹介されている（鈴木・出村 二〇一五）。まずは、本資料の存在についてご教示いただいた鈴木仁氏、さらに資料調査でお世話になった成城大学民俗学研究所にお礼申し上げる。

この「第六号」の内容について概観すると、一九一三年十一月から翌年三月までの冬期間に、流水の接岸するオホーツク海沿岸（東海岸）を縦走した出張報告書である。鉄道の開通していない地域が多かった時代であることから犬橇等で移動したことが想像される。大きく分けると、（一）一九一三年十一月、敷香支庁の内路、古丹岸、新聞の三村落（後に全て新聞に集住）の「生活状態及教育状況」の調査報告と、（二）一九一四年三月、敷香支庁から豊原への出張の帰途に内路、新聞、東白浦、小田寒、内渕（一般には内淵）、大谷の樺太アイヌ村落にある「土人教育所」の「教育状態視察」の報告である。なお、東海岸にはもう一つ落帆に「土人教育所」が設置されていたが、出張のルートから外れ

田村将人・東京国立博物館

たためか本資料には記述がない。また、日本海沿岸（西海岸）には、同時代に智来、登富津、条古舞、多蘭泊にそれぞれ「土人教育所」が置かれていたが、これらの地域も含まれていない。その後、集住村落の新設、統合等により「土人教育所」の統廃合も行われたが、樺太アイヌ全員が日本の戸籍に編入された一九三三年三月をもって樺太アイヌの児童を対象とした「土人教育所」は廃止され、和人児童と共学になった。ウイルタやニヅフ等アイヌ以外の先住民族の児童を対象にした「敷香土人教育所」は一九三〇年に開設され、一九四五年八月まで存続したようだ（国立サハリン州歴史文書館所蔵樺太庁文書）。

特筆すべき点を挙げると、樺太アイヌ児童に対する授業の内容（時間割等）が分かるのみならず、日本語をアイヌ語に翻訳させる「土語訳解」という授業があったこととそれに対する視察者の批判が記されている。各地に「土人教育所」が設置されてから数年後のことであり、かつ日本領になってからまだ十年と経たない時期で、まだまだアイヌ語母語保持率が高かったことが想像される。

さらに、内淵で教師を務めていた樺太アイヌの千徳太郎治（ロシア施政下でも同様に教師を務め、著書に『樺太アイヌ叢話』がある）が、授業内容が分かりにくい場合はアイヌ語で説明していたとも記されている。また、児童間の会話は学校ではなるべく日本語を使用する習慣をつけるよう視察者が論じたところ。他方、和人が教師を務めていた東白浦や大谷において、授業で使われたアイヌ語の例が記録されていること、また在籍する和人児童がアイヌ語で応答する様子も記録されている。樺太庁が設置した「土人教育所」の実態を考察する上で、本資料の持つ意味は大きく、アイヌ教育史および樺太教育史における検討を待ちたい。その他、当時の生活状況としてクロテンやジャコウジカ等の狩猟や、冬季の犬橇運搬業、さらにマス定置漁場で雇用された際の手当て（現物支給）の内容、河川における保存食用のマス漁撈等の生業に関する情報は民族誌を再検討する上でも参考になる。これらは、「土人漁場」を基盤とした樺太庁の先住民族政策を検証する上でも非常に有益である。

翻刻にあたり、旧字や異体字は当用漢字に直し、判読が難しい箇所は□とし

た。原文では句読点はほとんど使用されておらず、翻刻にあたりあえて句読点を追加しなかった。編者による注記は「」で括弧で示した。生徒の氏名等の個人情報については、省略するか、または氏名をアルファベットで略記した（個々の資料での取扱はその都度「注」に記した）。原文には「土人」のほか、現在では使用が憚られる単語・表現が多く出現するが、歴史的資料としてそのまま掲載している。なお、小川正人氏には附録の作表および多くのご教示を賜った。記して感謝する次第である。

本資料の調査及び翻刻にあたり、次の科学研究費を使用した。（一）基盤（B）「サハリン（樺太）島における戦争と境界変動の現代史」（代表者：原暉之、課題番号25285050）。（二）基盤（C）「近代北海道・樺太におけるアイヌ民族による学校設置とその歴史の意味に関する基礎研究」（代表者：小川正人、課題番号16K04520）。深くお礼申し上げる。

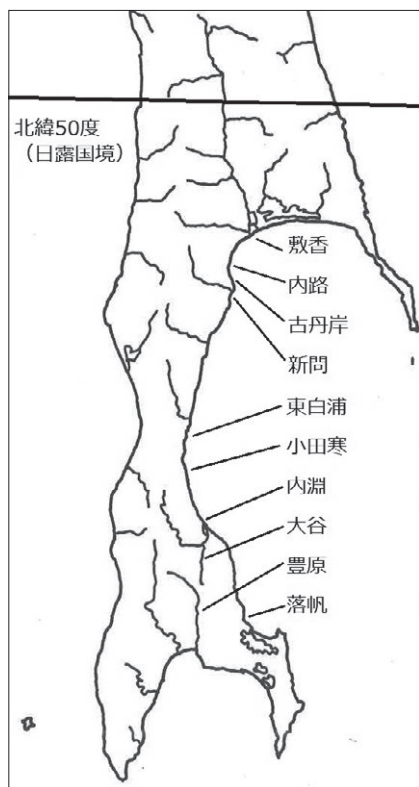


図 本資料に登場する地名

【資料】

第六号

愛奴生活状態及教育状況視察復命書

(東海岸愛奴部落中主トシテ樺太愛奴部落)

第一 大正二年十一月 属 山元善八

第二 大正三年三月 全

土人状態調査報告書

土人生活状態及教育状況調査ノ為メ本月一日出発内路、古丹岸、新問へ出張全六日帰朝致候処、其ノ状況左記ノ通ニ有之候。

土人生活状態

一、現在戸口

内路部落

戸数 十四戸 人口六十六人

内訳

五十一才以上ノ者 男 三人 女 二人 計五人

十七才以上五十才以下 男 十六人 女 十四人 計三十人

十七才未満ノ者 男 十三人 女 十八人 計三十一人

古丹岸部落

戸数 三戸 人口 十六人

内訳

五十一才以上ノ者 男 一人 女 一人 計二人

十七才以上五十才以下 男 四人 女 三人 計七人

十七才未満ノ者 男 六人 女 二人 計八人

新問部落

戸数 九戸 人口 四十五人

内訳

五十一才以上ノ者 男 二人 女 一人 計三人

十七才以上五十才以下 男 十一人 女 八人 計十九人

十七才未満ノ者 男 十一人 女 十二人 計二十三人

一、収支経済

土人アイヌ種族ノ収入ハ漁獵ヲ通シ凡ソ一ケ年多キハ五六百円寡キハ二百円内外ニ過キス毎年漁獵期ニ際シ内地人ヨリ其所要費ヲ前借シテ従業スルヲ例トス例ヘハ商店等ヨリ糧米金品等ノ貸付ヲ受ケ其収獲物ノ売買ヲ特約シ置クカ如シ而シテ収獲豊年ニ際会セハ優ニ前借ヲ弁済シ尚ホ半ケ年位ノ生活費ヲ支持スルニ足ル収入ヲ得ルモ概シテ貯蓄心ニ乏キ彼等ハ常ニ飲酒ニ耽ケリ僅ニ一ケ月ヲモ出テスシテ悉ク之ヲ消費スルハ彼等一般ノ状況ナリトス本年ハ春期稀有ノ大不漁ニ遭遇シタルヲ以テ彼等ノ食糧スラ已ニ欠乏ヲ告ケタルモノアリ加之本年貂獺ノ状況ヲ聞クニ未タ全部下山セサルヲ以テ其確的ナルコトハ保シ難キモ内路土人従業者十五六名中貂皮一枚(価格二十円内外)ヲ収獲セシ者一名アルノミニシテ他ハ皆不獵ニ帰シ僅ニ通シテ麝香玉二個、木鼠皮八枚ヲ収獲シタルニ過キストノ噂アリ又古丹岸土人ハ従業者六名ナリシカ貂皮二枚ヲ獲タルモノ一名ノミニテ他ハ皆不獵ニ終ハリ新問土人ハ従業十二三名ニシテ未タ下山シタル者ナキニヨリ之ヲ確知シ得サルモ附近一般ノ噂ニ依レハ是亦不獵ナルカ如シ而シテ彼等ハ例年下山後十二月中旬犬橇運搬開始マテ孰レモ家居休養スルヲ常トスレトモ本年ハ春秋ヲ通シ漁獵^{マデ}非況ニ了ハリシヲ以テ自家食料ハ勿論犬ノ飼料亦欠乏ヲ告クルノ状況ナルニヨリ冬季ノ犬橇使用ニモ差支ヲ生シ到底充分ノ従業ハ覚束ナキヲ察シ已ニ貂獵期終ハルモ尚ホ下山セス引続キ麝香鹿其ノ他ノ狩獵ニ従事セル模様ナリ然リト雖モ本年ノ漁獵ハ寧ろ稀有ノ例外ニシテ例年ノ状況ニ徴セハ彼等ハ漁獵ノ外尚冬季間ノ犬橇賃銀ニ依ルモ隨時相当ノ収入アルヲ以テ今彼等ニ対スル適応ノ保護方法ヲ講セハ其収入ヲ以テ生計ヲ支フルニ付左マテ困難ヲ感セサルヘシ

一、年中行事

彼等アイヌ土人ハ一月乃至三月迄犬橈ヲ使用シテ一般運輸ノ業ヲ営ミ以テ冬季間ノ生活ヲ維持シ（犬橈賃銀數香内路間一人一円、數香新間間全五円、數香元泊間全十五円各手荷物一個約三分ノ一）四月乃至七月中旬迄家族一同彼等ノ雜漁場茶呉ニ引越シ地引網ニ依リ鯿漁業ニ従事シ以テ食料及犬ノ飼料ヲ製造シ尚締粕ト為シ以テ米噌代金ヲ收入シ七月中旬乃至九月中旬迄内路土人ノ一部ハ罾建網漁場ニ雇ハレテ手間取業ニ従事シ（賃銀ハ漁期終了迄一人米一俵反物一反、刻煙萩四十匁玉五個損傷罾ノ全部ヲ取得シ食料及犬飼料ヲ製シ尚、男小供（十三四才）又ハ婦女ハ概シテ半賃其ノ他家族老幼一同無料居食ヲ給セラレ、慣例ナリ）又其ノ残部及古丹岸、新間ノ土人全体ハ一家族各地方ノ河川ニ出稼シ遡上罾ノ一部及放卵後ノ下リ罾ヲ漁獲シ食料及犬ノ飼料ヲ製シ九月末ヨリ十一月初旬迄貂獵ニ従事シ十一月中旬ヨリ十二月中旬迄家居休養（此間飲酒ニ耽ケルモノアリ）十二月下旬ヨリ犬橈使用ニ着手シ近距離間ノ運輸ヲ開始スルヲ以テ常例トス尚ホ婦女ハ九月末其ノ本拠地ニ復歸スルヤ厚織其他ノ他手工品ノ材料ヲ採取シ冬季間ノ生産ニ依リ其ノ生計ノ一端ヲ支フル等、彼等ハ年中一定ノ勞務ニ服スルノ□習ヲ有スルモ、如何セン漁獵ニハ年ニ依リ大豊凶アリテ本年ノ如ク非況ニ了ハル虞アルニヨリ以テ恒産ト為スニ足ラス効力ニ惟ヘラク彼等ヲシテ漁期ニ際シ家族出稼スルノ習慣ヲ廃止セシメ老幼及婦女ノ一部定住強制ノ政策ヲ施シ、以テ農事並ニ児童教育ヲ奨励セハ、一方恒産ヲ得テ生活困難ノ虞ヲ免カル、ト共ニ、他方ニ於テ教育ノ実ヲ拳クルヲ得ヘシ若シ夫レ從來ノ慣習ヲ踏襲セシメ現今ノ俛之ヲ放住セハ縦シオロツコギリヤーク種族ノ如クナラサルモ彼等ノ負債ハ到底之整理スルノ期ナカルヘシ（彼等ノ負債調査ハ尚一部未済ノモノアリテ本報告ニ付スル能ハサリシニヨリ追テ提出スヘシ）然レトモ、彼等ハ右両種族土人ニ比シ贅沢ノ心薄ク勤勞ノ念厚ク且ツ薄弱ナカラモ、漸次貯蓄心ヲ養成シツ、アルニヨリ負債償却ノ念モ亦常ニ心頭ニ懸カレルモノ、如ク從テ内地人ニ対スル受信用ノ程度稍ヤ厚キヲ見ルハ蓋シ、喜ミスヘキ点ナリトス。唯々遺憾トスルハ彼等無教育ノ結果概シテ遠見ノ思想ナク剩サヘ

薄志弱行之ヲ誘致スルニアラサレハ何事モ其成功至難ナルニヨリ一方児童教育ヲ奨励スルト同時ニ他方ニ於テ農事指導ノ道ヲ進ムルハ目下焦眉ノ急ナリト思料ス今彼等ニ就テ農事思想ヲ調査スルニ内路土人十四戸中僅少ノ馬鈴薯ヲ時付ケタル者ハ内路川ヲ隔テシ農耕地ニ移住シタル三戸ノミニシテ他ハ一粒ノ薯種ヲ為シタル者ナク又古丹岸及新間土人ニ於テハ一戸トシテ曾テ農事ニ手ヲ触レタルモノナキ狀況ニシテ其理由ヲ問ヘハ曰ク種子ノ給付ヲ受ケサル故ナリト然レトモ聞ク所ニ依レハ毎年支庁ニ於テハ種子給付時期ニ際リ各地アイヌ土人總代ニ通知シ参庁ノ上之カ給付ヲ受クヘキ旨ヲ促カスモ、時恰カモ鯿漁期ニ接迫シ専ラ漁業ニノミ偏心ノ彼等ハ遂ニ之ヲ抛棄シ受領ノ手配ヲ為サ、ルモノナリト謂フ惟ヘラク斯卡ル交通不便ノ隔地者ニ対スル種子給付ニ付テハ当局者ニ於テモ運送業者其他ニ委託シ之カ配布方ヲ請負ハシムルコト、セハ斯卡ル差支ヲ生スルコトアラサルヘク尚他方ニ於テ附近部落總代若クハ駅通又ハ土人教育所教員ニ対シ幾許ノ報酬ノ下ニ彼等ノ農事指導ヲ囑託シ隨時其成績ヲ報告セシムルコト、セハ庶幾クハ之カ奨励ノ目的ヲ達スルコトヲ得ン歟敢テ稗見ヲ吐露ス

土人教育狀況

内路土人教育所

一、教員 無資格者 駒杵房明担当

一、学齡兒童數 男 七名 女 十五名 計 二十二名

一、就学兒童數 男 七名 女 十二名 計 十九名

内訳

一学年 男 一名 女 四名 計 五名

二学年 男 四名 女 六名 計 十名

三学年 男 二名 女 二名 計 四名

ナルモ其ノ現在出席兒童ハ

二学年 男 二名 女 三名 計 五名

三学年 男 二名 女 一名 計 三名

ニ過キサルハ特ニ遺憾トスル所ナ。其理由ヲ聞クニ主トシテ児童ノ稍ヤ成長スルヤ父兄ニ於テ之ヲ家事ニ使役シ休学セシムルト同時ニ内地人ト混同教育ノ結果児童モ亦衣服其ノ他ノ内地人ニ及ハサルヲ恥辱トシ自然通学ヲ嫌厭スルノ傾向アルカ為メナリ

一、校地

従来ノ内路部落中央ニ位シ北方ハ約一町ヲ隔テ高三四丈ノ高台地ヲ控ヘ西方ハ一帯ニ山脈ヲ繞ラシ南方ハ内路川ヲ隔テ農耕地ニ接シ東方ハ約二町ヲ隔テ海面ス新旧土人部落ヲ距ルコト南北各六町ニ過キス児童ノ通学上大ニ便ナリ但タ北方旧部落ニ通スル道路右高台地ニ設ケラレ其上下ノ阪路急劇ナル為メ冬季間降雪ノ際通行困難ナルヲ遺憾トス敷地坪数約百二十坪ニシテ内北方五十坪ヲ以テ運動場トシ余ハ校舎ノ所在地トス

一、校舎

私立内路尋小学校内ニ設ケラレ露領時代ノ遺物丸太造ニシテ元ト運政時代ニ於ケル守備隊將校駐屯所跡ヲ以テ之ニ充ツ建坪約七十二坪ニシテ南方ニ玄関ヲ控ヘ西方約二十一坪ヲ以テ教室トシ中央ニ廊下ヲ隔テ雨中運動場ヲ設ク東南隅室ハ教員ノ住居ニ充テ東北方ニ便所物置等ヲ附属セシム教室ニハ南北各二個ノ窓ヲ開キテ採光可ナリ室ヲ南北ニ区分シ土人ト内地人トヲ異ニスト雖モ二者混同教授ノ方法ヲ採ルニヨリ別ニ障壁ヲ設ケス唯々其ノ着席ヲ区別シ黒板ヲ異ニスルノミ土人部ハ黒板一個机七脚ヲ設ケ内地人部ハ黒板二個机九脚ヲ置ケリ双方各ストーフノ設備アリテ採暖亦適當ナリ

一、校具、教材

珥鈴十組教員用文具及一二年生教授用修身掛図各二部ヲ備ヘアルノミニシテ他ニ備品参考書籍教案等ノ設備ナキヲ遺憾トス

一、校費

土人教育費ハ土人保護資金ヨリ一ヶ年六拾円（月五円）ヲ支出セラレ内地人教育費ハ住民二十五戸ヨリ一ヶ年六拾円（月五円）ヲ釀出シ毎戸平等負担月二十錢宛納付ノ定メナリ然ルニ現今未納者約半数ヲ占ムト謂フ今其ノ理由ヲ聞クニ

元来部落民中漁場出稼兼貂猟等ヲ目的トシ別ニ定職ナキ者約十戸アリテ皆官有家居（帳簿上ハ毀棄ノ姿ト為シアル趣）ノ無賃貸付ヲ受ケ独身生活ナルカ故ニ漁期又ハ猟期ニ際シテハ各閉鎖シテ他行シ常ニ不在勝ナルニヨリ学校管理者ニ於テモ収金上非常ニ困難ヲ極メ彼等ノ帰宅スルマテ自ラ之ヲ立替納付シ以テ漸ク校費ヲ支弁シ居ル有様ナリ聞ク所ニ依レハ内路部落ハ農耕地約百三十万坪以上ヲ有シ優ニ八十戸以上ノ農民ヲ收容シ得ヘキモ未タ殖民地ノ区画ナキ為メ新来者ハ其ノ移住ヲ躊躇シ反ツテ常職ナキ旧来者ハ耕地ノ一坪ヲモ有セスシテ官有家居ノ無賃貸付ヲ受ケ而カモ夏秋二季間之ヲ閉鎖シ僅ニ冬春ノ越年場トシテ之ヲ占拠セシムルカ如キ其ノ待遇ヲ顛倒シタル感ナキ能ハス惟フニ当部落確立ノ基礎ヲ鞏固ニシ教育ヲ増進スル上ニ於テモ殖民地画地ノ設定ヲ速成シ定住者ノ移殖ヲ図カルハ焦眉ノ急ニ迫マルモノト信ス

一、帳簿記録

帳簿記録種々ノ設備アルモノトシテ不整理ナラサルハナシ日誌ニ如キ明治四十四年四月以降記載皆無ニシテ其他ノ記録帳簿モ概シテ其記載皆無ニシテ其他ノ記録帳簿モ概シテ其記載継続セス唯々規定ノ報告書類控ノミ継続現今ニ及ヘルモ是亦事実相違ノ点多シ就中会計ニ関スルモノ甚タ明瞭ヲ欠ケリ先ツ経費金出納簿ノ設備ナク且ツ前項ニ述ヘタル土人教育費五円ハ当月必ス支払フヘキモノト誤解シ實際支出セサルモノヲ書面上支出シタルモノ、如ク装ヒ夫々支庁ヘ報告ヲ為シタル形跡アリ尚消耗品受払簿ノ設ケアルモ今日迄何等一片ノ記載ヲ為サス実ニ放漫極マレリ依テ至急現金出納簿ノ設備方ヲ注意シ本年度半期分ヨリ経費金出納ヲ明瞭ナラシメ又消耗品受払簿ニ付テモ細大漏サス必ス之カ記載ヲ為シ以テ物品ノ出納ヲ明ニスヘキ旨懇諭シ置ケリ

一、教員ノ執務状況及其適否

当日恰モ日曜ニ当リ其状況ヲ目撃セサルモ已ニ前ニ示シ如ク諸帳簿記録ノ不整

頓ハ以テ其ノ怠慢ヲ証スヘク且ツ教案ノ設ケナキハ即チ教授ノ準備ヲ為サ、ル証左ニシテ尚欠席児童ノ過大ナルヲ覩ルモ其ノ不熱心ニシテ管理亦其ノ宜キヲ得サルコト案スルニ余リアリ唯々教授ノ実況ヲ視サリシハ最モ遺憾トスル所ナルモ前後ノ状況ヨリ之ヲ推セハ是亦遺憾ノ点多カルヘシト信ス要スルニ教員トシテ蓋シ適任ニ非ラサラン歟唯々将来ノ注意トシテ土人教育ノ本音ヲ述ヘ且ツ之カ教師タルモノハ啻ニ児童ヲ教授スルノミニ止マラス同時ニ傍ハラ其父兄ノ指導ニ心懸クヘキ必要アル旨ヲ懇諭シ置キタリ

新間土人ノ教育

新間土人部落ハ未タ教育所ノ設置ナク教育状況トシテ別ニ見ルヘキモノナシト雖モ全部落ニハ已ニ学令児童モ十七名ニ達シ常ニ彼等徒然トシテ日子ヲ送ル状態ヲ目撃スルヤ軫タ感慨ニ堪ヘサルモノアリ早く教育所ヲ設置シ彼等ヲシテ均シク教育ノ恩典ニ浴セシムル必要アリト信ス聞ク所ニ依レハ已ニ支庁長ヨリ之カ設置ノ上申アリト真ニ其ノ時宜ヲ得タルモノト思考ス

右及報告候也

大正二年十一月十二日

敷香支庁土人事務囑託

樺太庁 属 山元善八

樺太庁長官 平岡定太郎殿

土人教育状況報告

小官儀

今般敷香支庁ヨリ帰庁途次各土人教育所教育状態視察致候処其ノ概況別紙ノ通ニ有之候

右及報告候也

大正三年三月十八日

樺太庁 属 山元善八
樺太庁長官 平岡定太郎殿

内路土人教育所

一、一般状況ニ付テハ既ニ客年十月報告済ニ付茲ニ之ヲ省略シ唯々教員児童及教授ノ実況ヲ叙述スルニ止ム

一、教員 無資格 駒杵 房明

一、児童（不就学児童ハ前報告ノ通）

就学児童 第二学年 男四名 女八名 計十二名

第三学年 男二名 女一名 計三名

但シ右第二学年女生八名中現今出席スルモノ五名ナルニ付實際ノ修業者ハ結局計十二名トス

一、教授ノ実況

視察当日ハ散江尋常小学校開催学芸品展覧会ニ出品スヘキ書画綴方ノ三課目ヲ授ケタリ

第一時 書方

第二三学年共予テ練習セシメタル文字ヲ浄書セシメテ時間ヲ了ハレリ

第二時 図画

第二学年 鳥居 第三学年 西瓜

右孰レモ教員黒板ニ範書シ各児童ヲシテ揮毫セシメ時間了セリ

第三時 綴方

第二学年 兎ト亀ノ話 第三学年 当日ノ日記

第二学年児童ニ対シテハ先ツ予テ教授シ置キタル話ノ要領ヲ質問シ之ガ応答ヲ為サシメタル後教員ニ於テ更ニ具体的話ヲ為シ各児童ヲシテ記憶ヲ惹起セシメ片仮名ニテ之ヲ綴ラシム

第三学年ニ対シテハ各自起床ヨリ学校ノ課程ヲ終ハルマテノ間ニ於テ目撃感想

シタル事柄ヲ片仮名ニテ作成セシメタリ

批評 本教育所ハ私立尋常小学校内ニ設ケ且ツ内地人ト混合教授ヲ為スニヨリ土人ノ児童ハ僅ニ二三学年ニ止マルモ各児童ヲ通シ一学年ヨリ六学年ニ至リ単級教授ナルヲ以テ之カ教師タルモノハ須ク教授法ノ攻究ヲ要ス可シ然ルニ本教員ハ予メ教授ノ腹案ナク且ツ何等其ノ準備ヲ為サス専ラ参考書（広島高等師範学校附属小学校ノ編纂ニ係ル各科教授細目）ニ一任シ予メ適否ノ研究ヲ為サス唯々手数ヲ省キ煩勞ヲ厭フ結果各児童ニ対シ其ノ俛之ヲ課スルニヨリ同一ノ時間ニ於テ同一科目ヲ教授スルニ際リ一部ノ児童ニ題目ヲ示シ彼等ヲシテ十分之ヲ会得セシムルマテ之カ説明講述ヲ為ス間他ノ児童ハ徒然手ヲ束子テ時間ヲ空費シ或ハ左顧右眊漫リニ私語ヲ為スモ教員ハ之ヲ知ラサル状況ヲ呈シ為メニ各児童ノ学習時間ヲ短縮スルト同一ノ結果ヲ免カレサルハ甚タ不可ナリト信ス現ニ当日第三時ニ於ケル教授ノ如キ先ツ第五、六学年児童ニ対シ杉ノ文題ヲ板書シ其ノ植物学上ニ於ケル種類性質等ヲ説明スルニ付約十分間位他ノ児童ヲシテ徒然トシテ待タシメ次ニ第四学年児童ニ対シ松下禅尾ノ俚約ト云フ文題ヲ板書シ先ツ具体的綴方ヲ為サシムル前ニ於テ予テ教授シタル話ノ要項ニ付二三ノ児童ニ問答ヲ為シタル為メ約十分間位他ノ三学年以下ノ児童ヲシテ私語ヲ恣マナラシメ第三学年ニ当日ノ日記ヲ綴ラシムル為メ前第五六学年児童ニ対スルト同様ノ現象ヲ呈シ第二学年児童ニ対シ兎ト亀ノ話ヲ綴ラシムルニ当リ第四学年生ニ対スルト同様ノ事ヲ繰返シ終リニ第一学年児童ニ対シ浦島太郎ノ話ニ付其要項ヲ口述書取ラシメタル結果一科目ノ教授ニ約一時間半ヲ費シ実ニ不規律ニシテ且ツ煩雜ヲ極メタリ要スルニ此等ハ普通ノ授業時間割ヲ變更シタルニモ因ルヘシト雖モ教員ニ於テ予メ教授ノ準備ナキハ確ニ其ノ原因ヲ為スモノト思惟ス注意 単級教授ニ在リテハ教師ハ最モ敏活ニ立働キ全部ノ児童ヲシテ学習上可成均衡ヲ得セシムルヲ以テ其主脈トシ漫リニ一部分ノ児童ニ対スル字句ノ説明ヲ細密ナラシムル為メ他ノ児童ヲシテ徒然時間ヲ空費セシメ若クハ倦怠ノ情ヲ惹起セシムルハ最モ忌ムヘキ事柄ナルニヨリ教員ハ予テ各科目ニ付教案ヲ設ケ且ツ時間前教授ノ準備ヲ為シ置キ各学年ノ教材ニ連絡ヲ保タシムル様注意ヲ要

スル旨ヲ諭セリ

新問土人教育所

一 教員 無資格（公医）長尾甲一

一 児童数 目下不就学児童ナシ

就学児童ハ男八名 女四名 計十二名トス（附第三号）

一 校地及校舎

未タ校地ノ選定ナク從テ校舎ノ建設ナキヲ以テ客冬新築シタル部落立病院内ノ

診察室ヲ以テ仮教場ニ充テ客年十二月一日ヨリ授業ヲ開始シタル次第ニシテ其設備ノ不完全ナルハ亦已ムヲ得サルナリ

一 校具其ノ他ノ設備（附録第五号）

前項ノ事情ナルニヨリ校具亦未タ完備ニ至ラス別紙附録備品台帳写ノ通僅ニ教具及教科書等ノ設備アルニ止マリ別ニ参考書籍教案其ノ他諸帳簿ノ設備ナキハ遺憾トスル所ナリ

一 教員ノ執務状況

熱心ニシテ親切丁寧ナルモ無経験ニシテ教授法ニ暗ラク僅ニ三四日間敷香尋常小学校教員ニ就キ実習シタルニ過キサレハ今後大ニ研究ノ必要アリ

一 管理訓練

室内掃除行届キ児童ノ服装亦別ニ不体裁ノ廉ナキモ其語遣ヒ粗悪ニシテ座作進退亦不規律ノ点アリシハ遺憾ナリ然レドモ児童ノ学事ニ熱心勉勵セルハ実ニ感

スヘキナリ今其成績ヲ考査スルニ開校以來僅ニ一日ノ欠席ヲ為セシモノ四名（三名ハ吹雪ニヨリ交通杜絶ノ為メ一名ハ病氣ノ為メ附録第四号）アルニ過キ

ス其他ハ総テ皆勤者ニシテ特ニ其殊勝ヲ感シタルハ冬季間嚴寒風雪ニモ拘ハラ

ス行程一里十七町ヲ隔テタル古丹岸ヨリ通学セルモノ五名男四名女一名（附録第三号）ガ日々犬橇ヲ使用シ一日モ遅刻ナク登校シ居ルハ蓋シ教員ノ指導奨励

最モ其ノ宜キヲ得タル結果ナリト信ス

一 教授ノ実況及批評

第一時 読方

各児童ヲシテ読本ニヨリ幾回トナク繰返シ輪読セシメタルハ単調ニシテ変化ナク且ツ機械的ニシテ児童ノ倦怠ヲ招クコト甚シキヲ認ム宜シク加フルニ摘書書取等ヲ以テセハ其頭腦ニ注入スルコト多ク記憶ヲ増スコト亦大ナリト信ス是レ蓋シ教員カ未タ教授法ヲ会得セサル所以ナリ

第二時 書取

教員先ツベンケイ、ウシワカ、マケマシタ、ソレカラ、ケライ、フエ、カタナ、ナギナタ、アシダ、ランカン等ノ語句ヲ口述シ児童ヲシテ之ヲ書取ラシメ一応回覧シタル後之ヲ板書シ以テ誤記者ヲシテ訂正セシムルニ止メタルハ余マリ単調ニ失シ児童ヲシテ何等興味ヲ感セシムルコトナシ一応劣等生ヲシテ板書セシメ優等生ヲシテ之ヲ訂正セシメナバ一方優等生ニ快味ヲ感セシムルト同時ニ他方ニ於テ劣等生ニ練習ヲ促カシ追テ一般児童ヲ奨励スルノ効果ヲ奏スルコト亦尠カラサルベシ

第三時 算術

先ツ児童ヲシテ一ヨリ二十迄ノ数ヲ交々数ヘシム二十迄之レヲ数ヘ得ル者四名十迄数ヘ得ル者六名未ダ充分ナラザル者二名アリキ次ニ各児童ヲシテ石盤ニ五、七、九等ノ文字ヲ書セシメ教員回覧ノ上板書シ以テ劣等生ニ之ヲ正誤セシムルニ止マリシハ蓋シ亦単調ニ失セリ宜シク劣等生ノ一名ヲシテ板書セシメ他ノ児童ニ之カ正否ヲ判断セシメ否トスル者ヲシテ之ヲ正誤セシメ漸次優等生ヲシテ之ヲ訂正セシメナハ前時書取ト同様ノ効果ヲ奏スヘキナリ

一 注意

授業終始ノ際ニ於ケル座礼ハ不可ナリ宜シク立礼セシメ又児童ノ読書若クハ応答発問ニハ総テ起立セシムルヲ可トシ尚児童ノ言語ハ常ニ正確丁寧ヲ期スヘク粗悪ナル語遣ヒハ室ノ内外ヲ問ハス之カ矯正ニ努ムヘキ旨注意ヲ促カシ又各科中算術ノ比較的拙劣ナルハ一般土人ニ数理ノ觀念ナク家庭ニ於テ生来曾テ数指ヲ屈スルコトヲ教習シタルコトダニアラザルニ基因ス故ニ之ヲ教授スルニ際リテハ単ニ連想的ニ之ヲ数ヘ得トスルモ未タ以テ孤別的ニ之ヲ覚ヘ得タリト云フ

ヘカラサルニヨリ或ハ円若クハ棒等ノ形体ヲ板書シ或ハ指ヲ屈伸シテ之ヲ示シ一児童ニ其数ヲ試問スル等適宜ノ方法ヲ講シ其応答ノ正否ハ他ノ児童ヲシテ之ヲ判断正誤セシムルノ方法ヲ採ラハ児童ニ対シ数理ノ觀念ヲ注入スル上ニ於テ効果最モ多カルベキ旨ヲ述ヘ終リニ諸帳簿（日誌、文書受発簿、児童学籍簿、全出席簿、教案簿及教授細目ノ作成及統計庶務会計書類ノ編纂等）設備ヲ要スル旨ヲ論シタリ

東白浦土人教育所

一 教員 無資格 隈崎幸吉

一 児童数（附録第七号参照）

就学者 男八名 女九名 計十七名 内休業者 男二名 女一名 計三名
不就学者 男一名 女七名 計八名（事由附録第七号）

来学期就学見込者 男四名 女七名 計十一名

一 校地 部落ノ中央高燥地ニ位シ後ニ山ヲ負ヒ前ハ海ニ臨ミ眺望佳ニシテ頗ル好適地ナリ

一 校舎 南室十六坪中八坪ヲ以テ教室ニ充テ八坪ヲ以テ室内運動場トス教員室ハ西北方三坪ヲ以テ之ニ充テ一間半及三尺ノ押入ヲ付シ台所ハ東北部七坪半ヲ以テ之ニ充ツ尚其ノ北方ニ四坪ノ物置ヲ控ヘ石炭薪材等ヲ貯蔵セリ中央部北方ニ二間ノ渡廊下ヲ通シテ両便所ヲ設ケタリ舎内掃除不行届ニシテ牀上塵埃多ク殊ニ両便所ノ如キハ最モ不潔ヲ極メ大便所二ヶ所中其一ヶ所ハ吹込ミタル雪堆積スルコト高三四尺ニ及フモ之カ掃除ヲ怠リ為メニ現今使用シ得サルニ至レリ

一 校具其他設備

校具トシテハ附録第十一号ノ通ナルモ其数不足ノ物アリ且ツ中ニハ破損ヲ生シ遂ニ修理ニ堪ヘサルモノヲモ之ヲ見受ケタリ又帳簿記録ノ如キニ至リテハ更ニ一冊ノ設備ナク公文書類ハ悉ク混同一括シテ之カ整理ヲ怠リ実ニ紛錯雜ヲ

極メタリ

殊ニ教案又ハ教授細目等ノ設備無キハ勿論甚キハ兒童ノ出席簿学籍簿備品台帳物品受払簿等サヘ之ヲ欠ケリ要スルニ粗放怠慢且ツ職務ニ不熱心ナル結果ナリト認ム

一 教員ノ執務状況

性質粗放ニシテ細事ニ留意セス校舍校具ノ保存ニモ亦留意ヲ払ハサル傾アリ殊ニ職務不熱心怠慢ニシテ教授ニ何等ノ準備ナク且ツ教授振不活潑ニシテ兒童ノ倦怠ヲ招ク虞アリ甚シキハ二月二十六日ヨリ以降疥癬ニ悩ムトテ猥ニ授業ヲ休止シ兒童ヲシテ一般休校セシメ自己ハ世間ヲ出歩キ居タルカ如キ形跡アリ視察当日ノ如キモ兒童^{マヤ}癩校セサルニヨリ俄カニ在校地居住者ノミヲ招集シ之カ授業ヲ為サシメタル次第ナリ尚学校休業ニ付テ其筋ノ認可若クハ承認ヲ受ケタルヤ否ヤヲ調査スルニ何等ノ手續ヲモ為サ、リシトコトニシテ不都合極マルモノト認ム

今其教授ノ実況ヲ見ルニ授業上何等差支ナキニヨリ明日引続キ授業スヘキ旨ヲ注意シ置キタリ

一 管理及訓練

兒童ニ行儀作法ナク教室ノ出入ニ規律ナク室内亦喧噪ニシテ授業中惡戯ヲ為スアリ

又手ト口トヲ墨汁ニテ真黒ニ汚スアリ殊ニ兒童ノ衛生ニ留意セサルモノト見ヘ其七八部ハ殆ント疥癬ヲ病ミ教員自身モ亦之ニ感染シタル傾キアリ要スルニ管理不行届ニシテ訓練ニ意ヲ用ヒサルカ為メナリ

一 教授ノ実況

第一時 算術

先ツ単位ノ加算ヲ課シ三ト三トノ和如何ヲ問フニ3ヲ板書シ兒童ヲシテ之ヲ読マシメ次ニ3+3ノ問題ヲ板書シテ単算口答セシメタル後答6ヲ板書シ劣等生ヲシテ訂正セシム四ト四トノ和ニ付亦同シ次ニ10+5ヲ板書シ之カ説明ヲ為スニ際リアイヌ語ヲ使用シ10ニ5コタマシテ如何ト問ヒ尚更ニモンペトワン

ペトコタマシテヘンバクト問ヒ尚其答十五ニ一ヲ加ヘテ幾何ト問フニ付ワンペアンシタトコロヘイワンベコタマシテヘンバクト問ヒシニ内地兒童中条源三郎ガ之ニ答ヘテ十六ト口述シタルヲ聞キ実ニ一種異様ノ感ニ打タレタル次ニ減算ヲ課スル当リ10+5ヲ板書シ幾何ヲ問フニワンベヨリモンペヲアヌフテヘンバクト問ヒ又18ヨリ4ヲ減シ幾何ヲ問フニ付亦同様ノ説明及問答ヲ為シタリ尚教員ノ談ニヨレハ目下加算五十マテ減算二十位マテヲ教授シ居ルト云フ算術科ニ於ケル兒童ノ習修^{マヤ}程度如斯一昨年本教員ノ着任^{マヤ}次来殆ント一年半ノ星霜ヲ経タル今日ノ状況ヲ見テハ実ニ前途憂慮ニ堪ヘサル次第ナリ

第二時 読方

先ツ読本十九花サカヂノ歌ヲ板書シ各兒童ヲシテ之ヲ輪読セシメタル後オヂーサンヲアイヌ語ニイタクセバチャヤノコトナリト訳言シ尚本歌ノ意味ヲアイヌ語ニ訳シ一句々日本語トアイヌ語トヲ对照シテ之カ説明ヲ与ヘタリ次ニ其歌ノ文句ヲ口演シ兒童ヲシテ之ヲ書取ラシメ以テ時間ヲ了ハレリ

此ニ於テ教員ヲ一室ニ呼ビ教授ヲ為スニアイヌ語ヲ使用セルハ如何ト問ヒシニ一昨年授業開始ノ際土人ヲ教授スルニハ土人語ヲ知ルノ必要アリト思惟シ殊ニ彼等ハ数学思想ニ乏キ故ヘ算術ヲ教授スルニ際リ困難ヲ感シタルニ付先ツアイヌ語ヲ研究シ以テ之ヲ利用シタル所以ニシテ今日ニ於テハ最早兒童モ一般ニ邦語ヲ理解シ得ルニヨリ之ヲ廃止スルハ差支ナキハ自覺シ居ルモ遂ニ習慣トナリテ時々之ヲ使用シ居レリト(其算術ニ関スルモノ、一例ヲ附録トシテ添付ス十二号)注意先ツ我カ領土内ニ在住セル異民族ニ対シテハ之カ統治上国語ヲ尊重セシムル必要アル旨ヲ説キ追テ本庁ノ土人教育ニ付テノ趣旨方計ヲ説明シタル上縦シ初学者ニシテ尚且ツ国語ヲ理解シ得サルモノニ対シテハ一時土人語ヲ利用スルノ便宜ナリトスルモ本校兒童ノ如キ既ニ能ク国語ヲ理解シ得ル今日尚土人語ヲ使用スルハ其ノ根底ニ於テ土人教育ノ趣旨方計ヲ没却スルニ至ル況ンヤ在校法人兒童ニアイヌ語ノ研究ヲ強ユル結果ヲ生ジ甚タ不都合ナルニヨリ漸次之ヲ廃止スルヲ可トスル旨ヲ論シタルニ本教員ハ茲ニ初メテ夢醒メタル如キ体ニテ今後ハ断然之カ使用ヲ廃止スヘキ旨ヲ述ヘタリ

第三時 書方

先ツ天マデノ三字ヲ板書シ兒童ヲシテ之ヲ読マシメタル上白紙ヲ黑板ニ貼付シ自カラ一字ヅ、書キ示シ執筆法筆順間架結構等ヲ教授シツ、兒童ヲシテ練習セシメ尚回覧ノ上更ニ各兒童ノ手ニスル筆端ヲ握リ一々其ノ書法ヲ教ヘシハ実ニ賞賛スヘシ然レドモ後之ヲ白紙ニ清書セシメ尚記名セシメタルヲ見ルニ其名前ヲ正確ニ書キ得タル者ハ当日出席兒童七名中僅ニ二名ニ過キス或ハ仮名ニテ其名ノミヲ記シ或ハ土屋ヲツツヤ又嶋丈新造ヲシンゾ中条源三郎ヲナカゾゲンザプロト記シアレトモ教員ハ之ヲ矯正セズ笑テ之ヲ其ノ俚取取セリ蓋シ平素訓練ノ足ラサルト同時ニ之カ矯正ヲ為サ、ルハ教授ニ不熱心ナルヲ証スルモノト謂フヘシ

第四時 唱歌

君ガ代 目下練習中ニ属シ各兒童未タ独唱シ得ルニ至ラス教員先ツ範唱シ兒童ヲシテ之ヲ斉唱セシメタリ尚目下独唱シ得ルモノハ漸ク兎ト亀、桃太郎、花サカヂチ、トンボ等ナリト云フ

以上要之本校教員ハ着任以來一学年ノ課程ヲ教授スルコト茲ニ約一ヶ年半ノ久シキニ渉ルモ兒童ノ学力尚如上ノ通ニシテ各科目共漸ヤク二学期位ノ程度（私立学校ニ比シ）ニ在ルハ蓋シ平素教授ニ不熱心ナル結果ニシテ豊原支庁管内ニ於テ最モ先キニ開校シ且ツ最モ多数ノ兒童ヲ有スル学校教員トシテハ他ニ適任者選任ノ必要アリト認メタリ

一 注意事項 授業ノ開始閉終ノ際ニハ兒童ヲシテ必ス立礼セシムヘク又読書問答ノ際ニハ必ス起立セシムヘク尚学校内ニ於テハ言語ハ強テ国語ヲ使用セシムヘキ事又兒童学籍簿、出席簿、成績簿、教員出勤簿、学校沿革誌、教案簿、教授細目、日誌、文書受発簿、備品台帳、物品受払簿、郵便切手受払簿等ヲ設備シ尚公文書類ハ例規綴及庶務統計表会計等ニ分類編綴シ且ツ保管物品ノ保存ニ留意シ校舍ノ掃除其ノ他管理ノ責任ヲ重スヘキコトヲ諭セリ

小田寒土人教育所

一 教員 本科正教員 福地健太郎

一 児童数（附録第十四号参照）

就学者 男九名 女四名 計十三名 但シ女一名ハ本邦人ナリ
不就学者 女一名 事由 能力ノ発達ノ遅緩ナルニヨル

来学期入学見込数 男二名 女三名 計五名

一 校地（附録第十九号参照）

部落ノ北端二位シ東ハ道路ヲ隔テ海ニ面シ西ハ草生地ヲ控ヘテ遠ク山ヲ望ム地質砂ニシテ飲料水亦良好ナリ尚草生地ハ運動場及校農園ニ充ツル見込ナリト云フ唯々遺憾ニ感シタルハ南方人家ニ隣接セル点ニシテ其他ハ別ニ差支ナシト認ム

一 校舍（附録第十九号参照）

東向キニシテ総坪数十八坪アリ内教室七坪五合教員室三坪炊事場二坪廊下二坪五合玄関一坪五合物置五合便所一坪トス教室ハ南ニ至リ東南西ノ三方ニ窓五個ヲ設ケ採光佳ナリ中央部ヲ教員室トス炊事場ヲ接続セシム東方玄関ニ入り廊下伝ニ各室ノ出入ヲ随意ナラシメタルハ便利ナリ屋内運動場トシテハ廊下ヲ以テ之ニ充ツ固ヨリ完全ニアラスト雖モ児童数ヨリ之ヲ觀レハ当分差支ナシト認ム

一 校具其他設備

校具トシテハ附録第十八号ノ備品及教師用教科書ノ一部等ニシテ別ニ参考書ナシ公文書類ハ諸達示綴、統計報告綴、雜書綴等ニ分類セラレ帳簿ハ単ニ備品台帳ヲ設ケタルニ止マリ其ノ他ノ備品ヲ欠ケリ故ニ尚ホ兒童学籍簿出席簿成績考査簿学校沿革誌教案簿教授細目日誌文書受発簿物品受払簿等ノ設備及雜書綴ト為セル公文書類ヲ庶務会計其他ニ分類編纂方注意セリ

一 教員ノ執務状況

諸事熱心ニシテ親切丁寧ナルハ感スヘシ尚土人教育ニ関シテハ特ニ趣味抱負ヲ有シ教授ニ付テモ相当準備アルガ如シ唯々諸帳ノ設備ヲ欠キタルハ遺憾ナリキ
一 管理訓練

室内極メテ静肅ニシテ座作進^{マデ}自ラ規律アリ兒童克ク命ヲ聴キ熱心學事ニ勉勵挙動亦活潑ニシテ言語明瞭ナルハ平素管理能ク行届キ訓練其ノ宜キヲ得タル結果ナリト認ム

一 教授ノ実況及批評

第一時上半 唱歌

君ガ代 先ツ片仮名ニテ板書シ之ニ調譜ヲ付シ兒童ヲシテ起立セシム末タ練習中ノ故ヲ以テ教員範唱シ兒童ヲシテ一斉合唱セシムルコト二回後兒童ヲシテ一斉独唱セシメタルニ調節未タ充分ナラサルモ皆能ク之ヲ独唱シ得タリ次ニ軍歌ヲ課シ予テ書取ラシメタル雜記帳ニ依リ之ヲ斉唱セシメタルニ比較的能ク熟練シタルヲ認メタリ

第一時下半 修身(本職希望ノ為メ)

蛸ト猿トノおとき話ヲ通俗のニ演述シ猿力戦争ニ負ケテ身危キ際人ニ助ケラレタル恩義ヲ謝シタル点ヲ挙ケテ獸類サヘ猶ホスノ如シ況ンヤ人タルモノハ苟モ受ケタル恩義ヲ忘レテハナラヌ旨ヲ訓授セリ

因ニ教員曰ク土人ノ子弟ハ曾テ歴史的談話ヲ耳ニシタルコトナシ今尋常一学年生ニ対シ忠君愛國等ノ義談ヲ聴カスモ馬耳東風殆ント無益ニ属ス故ニ本校ニ於テハ常ニ彼等耳目ニ触ル、物質ヲ比喻ニ引キおとき話のニ平易ノ訓授ヲ施サハ修身科トシテ其効果多大ナルヲ自覺シ遂ニ之ヲ実行シ居ルト最モ適切ナル考案ト認ム

第二時 読方

先ツ二三ノ兒童ニ対シ読本中前日教授シタル馬ト牛ノ相異ノ点ニ付問答ヲ試ミ次ニ本ヲ出サシメ次項二者優劣ノ部ヲ輪読セシメ誤読ノ点ハ他生ヲシテ正誤セシメ一周読ノ後更ニ教員語音ノ誤リタル点ヲ矯正シ一々板書シテ其正音ヲ示シ且ツ類似ノ語句ヲ板書シ劣等生ヲシテ之ヲ読マシメ優等生ヲシテ誤音ヲ訂正セシムル等專ハラ語音ノ正誤ニ意ヲ用ヒタルハ感スヘシ尚兒童力質問應答若クハ講読スルニ際リ一々起立ノ礼儀ヲ知ルハ平素訓練ノ宜キ結果ト認ム

第三時 算術

先ツ加算ヲ課スルニ各十位ヨリ成ル二個ノ数ト三個ノ数ヲ速読シタル二題二問ヲ板書シ甲乙二組二分チ之ヲ筆算セシメ各兒童ノ答案ヲ回覽シタル上劣等生ヲシテ其答エヲ口述セシメ之ヲ板書シタ後更ニ他生ニ対シ異ナル答ヲ求メ優等生ヲシテ答ヘシメタル上之ヲ板書シ尚優等生ヲシテ黑板ニテ運算セシメ更ニ教員運算ノ法ヲ板書教示シテ劣等生ヘ正誤セシム次ニ文字ヲ以テ十銭ノ物価三行ヲ板書シ之ヲ筆算ニテ合計セシメ前同様ノ教授法ヲ執レリ

次ニ十位ノ減算ヲ課シ其教授方ハ尚加算同様ノ方法ニ依レリ

次ニ乗算ヲ課スルニ 46×2 ノ式題ヲ板書シ之ヲ筆算口答セシメ前同様ノ教授法ニ依リ尚數題ヲ課ス

次ニ除算ヲ課スルニモ乗除同様ノ式題 ($24 \div 2$) ヲ板書シ之ヲ筆算口答セシメタル後優等生ヲシテ黑板ニ運算ノ方法ヲ表示セシムルコト前同様ナリキ

次ニ音算ニテ乗算ヲ課シ三銭ノ鉛筆四本ノ価ヲ問ヒ又五銭ノ鉛筆四本ノ価ヲ問セシニ孰レモ兒童ノ心算迅速ニシテ響ノ声ニ応スルカ如クナリシハ愉快ナリキ尚其答ヲ問フニ当リテハ先ツ劣等生ニ之ヲ問ヒ次ニ優等ニ及ホシ正答ヲ得タル上口頭ニテ九々呼声ヲ唱ヘ以テ之カ説明ヲ為セリ

尚目下乗算九々ハ五ノ段マテ練習シ居ルト云フ蓋シ運算ノ方法ハ第二学年ニ入リテ初メテ之ヲ授クヘキ筈ナルニ本校生徒ハ学力進歩シ現下一学年ニ於テ既ニ四則算ノ一班ヲ習得シタルハ実ニ感スヘキナリ

第四時 書方

先ツ教員天マデノ三字ヲ板書シ其ノ筆法、筆順問架、結構等ヲ教授シ各其所持セル書方手本ニ依リ草紙ニ之ヲ練習セシメ尚教員ハ絶ヘス回覽ノ上其執筆方及書法ヲ指示教授シ尚筆法問架等ノ正シカラサル点ヲ指摘シ一々之ヲ板書教示シ其活動ノ機敏ナル注目ノ細密ナリシハ感スヘキナリ

要之本教員就職以來僅カニ半歳余ナルニモ拘ハラス兒童ノ学力著シク進歩シ殊ニ彼等土人ニ數學ノ觀念乏キトハ一般ノ評言アルニ拘ハラス全兒童ノ七八部カ概シテ算術ニ熟練セル現象ヲ呈セルハ蓋シ其指導訓練宜キヲ得タル結果ニシテ先ニ東白浦教育状態ヲ視タル目ヲ以テ茲ニ本校ノ状況ヲ視ルトキハ真ニ痛快ニ

堪へス此ニ於テ思ヘラク土人智能発達ノ遅速モ一々之カ指導教訓ノ如何ニアリ
決シテ先天的低脳ナルニアラサルヲ信ス殊ニ数理ノ觀念ニ付特ニ之ヲ感シタリ

内渚土人教育所

一 教員 無資格(土人) 千徳太郎治

一 児童数(附録第二十一号参照)

就学児童 出席児童 男九名 女六名 計十五名

退学児童 男一名 女四名 計五名

不就学児童 ナシ

来学期入学児見込数 不明

一 校地

部落東南端二位シ南方ハ道路ヲ隔テ内渚川ニ沿ヒ東北方ハ池沼ヲ隔テ、遠ク
海ニ面ス人家ヲ離レタル閑静地ニシテ校地トシテハ適当ト認ム

一 校舍

校舍東南方ニ向ヒ総坪数二十坪二合五勺ニシテ内教室十一坪二合五勺教員室三
坪炊事場二坪玄関二坪廊下一坪二合五勺便所七合五勺トス教室ハ西南方ニ当リ
窓四ヶ所ヲ設ケ採光佳ナリ然レドモ屋内運動場ナキニヨリ風雨雪ノ際ニハ教室
ヲ以テ児童ノ休憩場ニ充ツルノ止ムヲ得サルノ特ニ遺憾トスル所ナリ

一 校具其他設備

校具トシテハ附第二十四号ノ備品及修身掛図等アルモ他ニ参考書ナシ帳簿ハ日
誌及児童出席簿ノ二種アルニ止マリ其他何等ノ設備ナシ殊ニ日誌ニ関スル中
ニハ公私混交ノ記事アリテ頗ル不体裁ヲ極メタルニヨリ今後私事ノ記載ヲ避ク
ヘキ旨注意シ尚児童ノ成績考査簿、学校沿革誌、教案簿、教授細目、文書、受
発簿、備品台帳物品受発簿等ノ設備ヲ要シ公文書類ハ例規庶務統計会計等二分
類編纂スルヲ可トスル旨注意シタリ

一 教員ノ執務状況

諸事熱心活潑ナルモ經驗ニ乏シク為メニ処事困難ヲ免レス尚教授ニ付テモ何等

準備ナク且ツ教授法ニ暗キニヨリ批難スヘキ点多シ将来大ニ研究ヲ要スベキナ
リ

一 管理訓練

管理不行届ニシテ室内喧噪ナリ然レドモ座作進退ニ規律アリ挙動亦活潑ナリシ
ハ訓練ノ効果ト認ム

一 教授ノ実況

第一時 読方

読本第二十 花サカザデ

先ツ児童ヲシテ輪読セシメ時々其ノ誤読ノ点ヲ矯正シ次ニ黒板ニ摘書シテ之ヲ
読マシメ又ハ児童ヲシテ之ニ摘書セシム尚之カ説明ヲ与フルニ当リ総テアイヌ
語ヲ以テ之ヲ訳言シタリ次ニ新教授ヲ為スニ付直ニ読本ニ付キ教員一句ツ、読
ミ全児童ヲシテ之ニ習ヒテ齋読セシメ尚アイヌ語ヲ以テ講義ヲ為シタル上同音
復読セシム次ニ教員一句ツ口述シ児童ヲシテ之ヲ書取シメ教員回覧ノ上児童
ヲシテ黒板ニ適書セシメ以テ時間ヲ了セリ

注意 初学者ニシテ未タ日本語ヲ理解シ得ス又ハ意義煩雜ニシテ二様ノ意味ニ
解セラルベキ虞アル個所等ニ付アイヌ語ヲ以テ之ヲ訳言説明スルハ或ハ便宜ナリ
トスルモ元来土人教育ノ趣旨方計ハ日本語ヲ以テ之ヲ教授スルヲ正則トスルニ
ヨリ児童ニシテ既ニ日本語ヲ理解シ得ル以上ハ可成アイヌ語ヲ使用セサルヲ可
トス尚児童間ノ言語ニ付テモ少モ学校内ニ於テハ日本語ヲ使用セシムル習慣ヲ
涵養セシムヘキ旨ヲ諭シ置ケリ

第二時 算術

先ツ加算ヲ課スルニ当リ六ト五、二ト八、四ト八、十二ト六、十八ト九、二十一ト
四ト云フ題目ヲ板書シ直ニ三個ノ答ヲ求メ児童ヲ暗算、筆答えセシム一応教員
答案ヲ回覧シタル後板書ニ付二題ツマ合算ノ答ヲ示シ其成否ヲ挙手ニ問フ成リ
タルモノ三名ナリキ蓋シ本問題ハ其意義稍ヤ明瞭ヲ欠クニヨリ宜ク六ト五ト八
ノ和如何トシテ一題ヲ画シ順次之ニ準記スルヲ可トスル旨注意シタリ次ニ教員
口述以テ暗算ヲ課シ石盤ニ之カ答案ヲ記サシメ教員回覧ノ上先ツ劣等生ヲシテ

答ヘシム二十ト八ノ和ヲ問ヒシニ或ハ十八或ハ十四ト答フル者アリ次ニ三十ト五ノ和ヲ問ヒシニ或ハ二十五或ハ四十ト答フル者アリテ成否約半セリ算術ノ習得拙劣ナル如斯尚本校ニ於テハ目下百以下ノ加算ノミヲ教授シ居ルト云フ時間了ハルヤ教員ニ対シ本校児童ハ比較的算数ノ觀念ニ乏シ宜シク加算九九ノ呼声ヲ教授シ之ヲ暗誦セシメナバ自然誤算ナキニ至ルト同時ニ亦迅速ニ運算シ得ルニ至ルヘキ旨注意

第三時 書方

教員板書シテ其ノ書方ヲ教ヘ各児童ヲシテ所持ノ習字手本ニ依リ練習ノ後白紙ニ清書セシム教員回覧注意スル所アルモ執筆姿勢甚タ悪キアリ或ハ筆順ヲ誤マル者アレドモ教員ハ之ヲ氣付カサルカ如シ尚記名セシメシニ片仮名ニテ名ノミヲ書シ得ルモ誤記多キヲ認ム時間後教員ニ対シ一々之ヲ示^{マデ}摘シ其矯正ニ付注意ヲ促セリ

第四時 唱歌

読本ニ依リ一月ノ歌ヲ演セシム目下此ノ他ニ教授シタルモノナク殊ニ君ガ代ノ唱歌ノ如キハ教員尚未タ不案内ナリト云フ

要スルニ本教員ハ元ト正則ノ教育ヲ受ケス教師トシテノ資格ニ乏シ宜シク適任者ノ選定ヲ要ス

大谷土人教育所

一 教員 無資格 豊岡龍市

一 児童数 就学児童 出席児童 男八名 女四名 計十二名

退学児童 男二名 女一名 計三名

但シ退学事由ハ男一名ハ内測ヘ転任^{マデ}全一名ハ学齡ヲ超過シ家事手伝ノ為メ女一名ハ家事都合ニ因ル

不就学児童ナシ

来学期入学児童見込数 男一名 女三名 計四名

一 校地

部落ノ東方約三町ヲ隔離セル乾燥地ヲ選択シタルモ其間鉄道敷地通路ヲ遮キリ且ツ一柳牧場ヘ通スル道路校地内ヲ貫通セルハ遺憾ナリ唯々四隣ニ人家ナク広潤ニシテ閑静ナル点ハ寧ロ校地トシテ適當ナリト認ラル

一 校舎（附録第三十一号参照）

総坪数三十坪ニシテ内教室十二坪事務室三坪、教員室三坪炊事場三坪物置二坪押入一坪廊下三坪渡廊下二坪便所一坪トス尚外二一坪ノ井戸屋形アリ水量稍ヤ少キモ尚飲料充分ナリ教室ハ南方ニ二間ノ窓ヲ設ケ採光最モ佳ナリ唯々屋内運動場ナキヲ遺憾トスルモ児童数少キニヨリ当分ノ間廊下ヲ以テ之ニ充ツルモ敢テ差支ナシト認ム

一 校具其他設備

校具トシテハ附録第二十九号記載ノ備品ニ止マリ他ニ参考書籍ナシ帳簿及記録ハ概シテ整理可ナリ唯々学校沿革誌教案簿文書受発簿教授細目物品受払簿郵便切手受払簿等ノ設備ナキヲ遺憾トシ之カ補充方注意セリ

一 教員ノ執務状況

性質温和真面目ニ執務シ執^{マデ}務シ熱心親切常渋滞ナキハ感スベシ尚教授ニ付テモ相当服案^{マデ}アルガ如シト雖モ国語科中土語訳解ノ一科目ヲ加ヘ而カモ一週間中之二五時間ヲ配当シ為メニ他科目ノ学習時間ヲ減縮シタルハ甚タ不可ナルニヨリ以後絶対ニ之ヲ廃止シ該教授時間ハ詭方及算術ニ各一時間綴方ニ三時間ヲ配当増加シ各其ノ学力ノ拙劣ヲ補充センコトヲ注意シ尚来学期ヨリ授業時間割全部ヲ附録第二十六号ノ通改定方協議シタリ（附録第二十五号参照）

一 管理訓練

室内極メテ静肅児童亦克ク命ニ從ヒ挙動活潑言語明瞭ナリシハ平素管理能ク行届キ訓練亦其ノ宜キヲ得タル結果ト認ム唯々児童中俗ニ白雲ト云フ皮膚病ヲ煩^{マデ}ヒ頭部一面白甲ヲ被ブレル者二名ヲ認メタルハ家庭ニ於テ衛生ニ注意セサル結果ニシテ伝染ノ虞アルニヨリ之カ治療方注意ヲ促カセリ

一 教授ノ実況

第一時上半 修身

先ツ教員シランクリト板書シ之ヲ日本語ニ訳解ヲ求メシニ答フル者ナキニヨリ
教員之ヲ兄弟ト訳言板書シ次ニ父母兄弟姉妹ノ系統ヲ黑板ニ図示シ各其ノ名称
ヲアイヌ語ニ訳言説明シタル後毛利元就ガ試ミニ三人ノ子供ヲシテ矢ヲ折ラシ
メ各一本ヲ折り得タルモ其三本ヲ同時ニ折り得サリシコトニ付三人ノ小供ニ対
シ将来強敵ニ会セハ必ス三人協力以テ之ニ当ルヘキコトヲ訓誡シタル故事ヲ引
キ凡テ兄弟ハ仲善クスヘキ旨訓授シアイヌ語ニ之ヲ訳シ且ツ右ノ二語対照シタ
ル系統図解ヲ雑記帳ニ書取ラシメタリ

注意 右昔ノ歴史談ハ土人ニ対シテハ稍ヤ高尚ニ失ス宜シク平易ナル談柄ヲ以
テ之カ教材ニ供スルヲ可トスル旨注意セリ

第一時下半 算術

算術ハ専ハラ教科書ニ依リ運算法ハ未タ之ヲ教ヘス唯々其ノ準備法ノミヲ教授
シ居レリ先ツ加算ヲ課シ教員左ノ四問題ヲ順次板書シテ暗算筆答セシム

第一問 三銭ノ切手五枚ノ価 答十五銭

第二問 五銭ノ麴麴三個ノ価 答十五銭

第三問 十五銭ニテ買入タル三銭切手ノ数 答五枚

第四問 十五銭ニテ買入タル五銭ノ麴麴ノ数 答三個

各問題ニ付教員児童ノ答案ヲ回覧シタル後二三児童ノ答ヲ板書シ各説明ノ上劣
等生ノ誤算ヲ訂正セシメタリ

第二時 読方

先ツセウト板書シテ之ヲ読マシメ尚読本ニヨリ数個ノ摘書ヲ為シ次ニ「オホ
セ」「オホメ」ノ読方異ナル点ヲ示シテニオハノ使用法ニ依リテ之の説明シ次ニ
新教授ヲ為セリ先ツ読本ヲ出シ教員範読シ次ニ同音齊読セシメ次ニ児童ヲシテ
輪読セシム

注意 新教授ヲ為スニハ先ツ新字ノ摘書ヲ為シ之カ説明ヲ与ヘタル後読本ニ就
キ教授セバ児童ノ頭腦ニ注入スル力強ク從テ其ノ習修亦速カナルヘキヲ述べ尚
輪読ニ際シ各児童ノ座読シタルハ当ヲ得ス宜シク之ヲ立読スルヲ可トスル旨注
意セリ

第三時 唱歌

先ツ音解表⁽³⁴⁾ヲ板書シ説明ノ上之ヲ範唱合唱セシム

次ニ君ガ代ノ唱歌ヲ教授スルニ当リ之カ準備トシテ調譜ヲ板書シ一句ツ、説明
ヲ与フル為メ時間二十分ヲ費スモ尚準備整ハス此間児童ハ手ヲ束ネテ時間ヲ空
費ス漸ク教授ニ着手シ句ツ、之ヲ範唱合唱セシメシニ練習未タ足ラスシテ之ヲ
習得スルニ至ラサルニヨリ之カ教授ヲ中止シ自今習修シ居ルモノヲ所望シタル
ニ教員風車ノ歌ヲ板書シ之ヲ範唱合唱セシメタルモ尚ホ未タ練熟セサルモノ、
如シ

注意 新ニ唱歌ヲ教授スルニハ先ツ之カ準備ヲ為シ音解表又ハ調譜ノ如キハ予
メ時間前板書シ置クヲ可トス既ニ二十分時間ヲ費ヤスモ準備未ダ成ラサルカ如
キハ徒ラニ教習時間ヲ短縮スル結果ヲ生スルノミナラス児童ヲシテ倦怠ノ念ヲ
惹起セシムル虞アル旨ヲ注意シタリ

第四時上半 書方

先ツ教員カラダ口目耳ノ六字ヲ板書シ之ヲ読マシメタル上更ニ書法ヲ説明シ各
自所持ノ手本ニ依リ之ヲ白紙ニ練習セシム教員回覧指図スル所アルモ其ノ注目
細密ナラス或ハ筆順ヲ誤マリ「耳」ヲ書スルニ先ツ一ヲ書キ次ニ右棒次ニ左棒
終リニ中ノ三ヲ書シタルモノアルモ教員之ヲ氣付カサリシハ遺憾トス尚各自名
前ヲ片仮名ニテ書キ得ト雖モ中ニハ「ラウ」又ハ「ロウ」ト書スルアリテ一定
セス然ルニ教員モ尚其ノ孰レガ正確ナルヤヲ攻究セス其俟之ヲ放任シ居ルカ如
シ是等ハ甚タ不可ナリト信ス苟モ児童ヲ教授スルモノガ甲ニ対シテハ「ラウ」
乙ニ対シテハ「ロウ」ト教フルハ児童ヲシテ疑念ヲ起サシメ且ツ教員ノ信用ヲ
害スル虞アルニヨリ須ラク攻究ノ上孰レカ之ヲ一定スルヲ可トスル旨注意シタ
リ

第四時下半 綴方

教員 先ツ傍ラニ在ル薬缶ヲ示シテ其名ヲ問ヒシニアイヌ語ニテチャクラト綴
リテ之ヲ口答ス次ニ日本語ニテ綴リ方ヲ命ジ「此処ニ来テ居ラル、方ハ何人ナ
リヤ」「トノサマガキテキマス」等ノ区々ニ涉リ其ノ綴リ様一定セス教員回覧

ノ上之ヲ板書シ一々説明ノ上樺太庁ノ御役人デスト仮名ニテ矯正シ次ニ前ニ在ル机ヲ示シ其ノ机ハ何デ造リシモノナルヤト問ヒシニ或ハ「ソノツクヘハイタデコシラヘタモノデス」「ソノツクヘハキデコシライタモノデス」等亦其綴様ヲ異ニセリ教員ハ之ヲ板書シタル上「板デ」ト綴リシ方可ト説明シ尚デスノ語ヲ丁寧ナル語ニテ言ヒ表ハセバ如何ト問ヒシニ或ハ「アリマス」ト答フルモノアリ或ハ一層丁寧ニ「ゴサイマス」ト答フルモノアリテ一定セス教員之ヲ板書シタル上「アリマス」ヲ上乘トスル旨ヲ教タリ

注意 綴方ハ比較的練習セルモノ、如キハ教材稍ヤ不適当ナリト認ム一学年児童ニ綴方ヲ教授スルニ当リ単ニ有形物ヲ示シ其内容ヲ説明セサルハ第一児童ヲシテ答案ヲ付スルニ当惑セシメ且ツ其觀念異ナルニ從ヒ其ノ綴リ方亦区々、出デシムル弊ヲ免レサルニヨリ読本又ハ他ノ参考書等ニ依リ予メ教案ヲ備ヘ具體的内容ヲ説明シテ之ヲ課スルヲ可ナリト信スル旨注意セリ

第五 土語訳解

先ツ前ニ綴方ニ於テ板書シタル「ソノツクヘハイタデコシラヘタモノノデス」ヲ指示シ之ヲアイヌ語ニイタクシテ何ト云フカト問ヒシニ「イタニアンカラタイ〔閉じ括弧なし〕」ト答ヘタルモノアリ教員之ヲ板書シテ此訳言ニハ接続詞ナキ旨ヲ批評シテ之ヲ矯正シ次ニ「アカンボノトキニダイテチチヲ、ノマセテ、クダサツタノハ、ドナタデスカ」ト板書シ之ヲアイヌ語ニイタクシテ何ト云フカト問ヒ筆答セシメシニ「ポホウ、ソマン、アントトエレアニ、ヘラスカ」ト記載セシモノアリシガ教員ハ之ヲ板書説明シテ其不備ノ点ヲ矯正シタリ因ニ是レハ以前曾テ教習シ置キタル問題ナリト云フ

注意 前記執務状況ノ部ニ於テ教授時間割改正ノ件ヲ注意スル前ニ当リ先ツ東白浦教員ニ対シテ為シタル同様ノ意味ニ於ケル注意ヲ為シ土人ニ対スル施政ノ方針及土人教育ノ趣旨ヲ説明シ尚曾テ樺太日々新聞ニ掲載セラレタル帝国議會ノ記事ヲ引キ「帝国議會ニ於テ政府委員タル我長官ニ対シ樺太ニ於ケル土人教育ハ土人語ニテ教授スルヤ又ハ邦語ニテ之ヲ為スヤ」トノ質問サヘ出テタル位ニシテ土人ニ対スル国語教授ガ如何ニ重要ナル關係ヲ有スルヤハ帝国議會ノ

議事ニ上ル点ヨリ之ヲ考ヘテモ自ラ明ラナル旨及其理由ヲ説明シ且ツ土語使用カ根本の方計ヲ誤マル旨諭シタルニ本教員モ亦東白浦教員ト同様ノ体ニテ未タ土人教育ノ趣旨の方計ヲ能ク弁知セサリシコトヲ謝シ今後直チニ之ヲ廃止スヘキ旨ヲ陳述セリ

要之本校児童ノ学力ハ從來授業時間割中ニ土語訳解ナル一科目ヲ加ヘ而カモ最多時間ヲ之ニ配当シタル為メ自然他科目ノ学習時間減縮セラレタル結果比較的劣劣等ナル点多シト認ム宜シク補充ノ途ヲ講スヘキナリ以上視察ノ結果ニ徴シ其成績ヲ考查セハ内路ノ尋常小学校ニ併置セル邦人混交教育ヲ除外シ其他ノ五ヶ所ニ就キ之ヲ觀ルニ孰レモ大同小異ニシテ僅ニ小田寒ノ稍々見ルヘキモノアルニ止マリ其ノ他ハ概シテ不良ナリト認ム蓋シ土人教育所ニ於ケル教授科目ハ唯々尋常小学校ノ課程ニ準スト云フニ在リテ別ニ之カ教授細目ヲ示サス其ノ教材選択ノ如キモ一ニ教員ニ委シタル結果適々教員ノ考案ニテ宜シキヲ得タルモノハ比較的好成績ヲ呈スト雖モ然カモ尚不備ヲ免カレスレ或ハ教員ノ適否ニモ因ルヘシト雖モ主トシテ之ヲ統一シタル教授法ヲ示サ、ル結果ナリト信ス仍テ先ツ各教員ノ意見ヲ徴シ予メ土人児童ニ適當ナル教授細目ヲ編成シ専ラ之ニ準拠セシムルコト、セハ其成績ノ挙カル蓋シ庶幾カラン乎敢テ卑見ヲ陳フ

附録第一号
私立内路尋常小学校教授時間表

備考
当分裁縫ノ代リニ算術ヲ料ス

土						金						木						水						火						月						曜	
																																				学級	時間
六	五	四	三	二	一	六	五	四	三	二	一	六	五	四	三	二	一	六	五	四	三	二	一	六	五	四	三	二	一								
																													学年								
全	全	読方				全	全	読方	算術	全	読方	全	全	修身	読方	全	算術	修身	修身	修身	修身	修身	修身	修身	修身	修身	修身	修身	第一時								
全	算術	書方	地歴	算術	綴方 話方	全	読方	算術		図画	全	算術	書方	全	読方	美術	書方	算術											第二時								
全	全	唱歌	全	全	遊体	書方	算術	綴方 話方	全	全	唱歌	全	全	遊体	綴方	算術	読方												第三時								
全	書方	算術	全	書方	算術	全	全	遊体	理科	読方	書方	算術	全	書方	理科	綴方	綴方	綴方	綴方	綴方	綴方	綴方	綴方	綴方	綴方	綴方	綴方	綴方	第四時								
裁縫				綴方	図画		全	裁縫		算術	図画			裁縫	裁縫		地歴	読方											第五時								

備考 当分裁縫ノ代リニ算術ヲ科ス

計拾七名		Q	P	O	N	M	L	K	J	I	H	G	F	E	D	C	B	A	生徒姓名
女8	男5	九	一六	一七	八	〇	一六	九	九	九	一七	一六	〇	一六	一六	〇	一六	一	一月
7	6	八	一一	一	九	一七	一	八	八	八	〇	一	一七	一	一	一七	一	一	二月
		一五	一五	一五	〇	〇	一六	一四	一四	一五	一六	一六	〇	一六	一六	一四	一五	一	三月
8	6	三	二〇	一八	〇	二	二	二〇	二	二	二	二	〇	一九	二	二	二〇	一	四月
		〇	一	三	二	〇	〇	一	〇	〇	〇	〇	二	二	二	〇	一	一	五月
8	6	八	八	九	〇	〇	六	二	七	六	七	五	〇	二	七	八	六	二	六月
		二三	二	一	三〇	二〇	二四	二八	二三	二四	二三	二五	二〇	二八	二三	二二	二四	一八	七月
0	0	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	八月
		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	九月
0	一	〇	〇	七	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	十月
		二五	二五	一八	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	十一月
0	一	〇	〇	一九	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
				三															
0	一	〇	〇	一九	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
				四															
4	4	一九	一九	二三	〇	一四	〇	〇	〇	〇	一五	一三	〇	四	八	〇	〇	〇	
		六	六	二		二					一〇	二		二	一七				
4	4	一一	一一	一一	〇	八	〇	〇	〇	〇	八	九	〇	八	二	〇	〇	〇	
		二	二	二		一五					一五	一四		一五	二				
7	4	〇	三	五	〇	五	〇	二	二	二	五	五	〇	五	五	〇	〇	三	

大正二年一月以降 内路土人教育所児童出欠表 自一学年 至三学年
注…生徒の姓名は全てアルファベットとした。
出席・欠席の日数の区別について資料中には説明が無い。

全	全	全	全	大二年十二月一日	入学月日
女	全	全	全	男	男女ノ別
全	全	全	全	新聞	現住
全	全	全	全	新聞	旧住
E	D	C	B	A	氏名
十一年	九年	十年	十二年	十三年	年令

附録第三号 新聞土人教育所生徒人名

土曜	金曜	木曜	水曜	火曜	月曜	曜／時
		修身			修身	自八時 至九時
全	全	全	全	全	読書	自九時 至十時
全	全	全	全	全	書取	自十時 至十一時
習字	算術	習字	算術	習字	算術	自十二時 至十二時

附録第二号 新聞土人教育所時間割

全年二月十九日	全年二月一日	大正三年一月六日	全	全	全	全
男	女	女	全	全	男	全
全	古丹岸	新聞	全	全	古丹岸	全
檜保	内路	柵古丹	全	全	古丹岸	全
L	K	J	I	H	G	F
十年	十年	十二年	十一年	八年	十三年	十年

〔附録第四号〕

〔新聞土人教育所〕欠席者調

注…本項目は「欠席者調」とあるのみだが、前後のつながりなどから表題等を補った。

十二月 欠席者 ナシ

一月中、二十七日 古丹岸ヨリ通学ノGHIノ三名吹雪ノ為メ行路絶へ欠席

二十六日 J病氣ノ為メ欠席

二月二十五日迄 欠席者ナシ

附録第五号

新問土人教育所備品

一 教用卓 一脚

一 教台 一台

一 生徒用机 十脚

一 黒板 大一枚

一 全 小一枚

右之通

大正三年二月二十五日

附第六号

東白浦土人教育所

尋常小学第一学年授業時間割

土	金	木	水	火	月	曜
算術	修作法	算術	修遊	算術	修身	第一時
読方	算術	読方	算術	唱歌	算術	第二時
書方	読方	唱歌	読方	読話	読方	第三時
	体操	書方	書方	体操	書方	第四時

附録第七号

東白浦土人教育所

学齡児童表（大正三年三月調）

就学児童 中 出席児童

注…生徒の姓名は全てアルファベットとした。

男女別	氏名	生年月日
男	A	明治三十五年八月四日
〃	B	全三十五年三月三日
〃	C	全三十六年九月二十日
〃	D	全三十五年四月十二日
〃	E	全三十六年六月十七日
〃	F	全三十九年一月三日
女	G	全三十七年二月十八日
〃	H	全三十五年十月十日
〃	I	全三十六年五月二日
〃	J	全三十三四年四月十日
〃	K	全三十七年八月九日
〃	L	全三十五年五月十日
〃	M	全三十九年四月十日
〃	N	全二十九 ^(イ) 年十月五日

全退学児童

注…本項目は「退学ノ事由」「男女別」「氏名」「生年月日」の欄からなる表形式のものであるが、男女別と「退学ノ事由」及びその人数のみを挙げる。

男

「家事手伝ノ為メ」(2名)、「実父死亡家事手伝ノ為メ」(1名)。小田寒部落ニ転住」(1名)、「結婚ノ為メ」(1名) 計5名

女

「結婚ノ為メ」(2名) 計2名

全休学児童

注…本項目は「休学ノ理由」「男女別」「氏名」「生年月日」の欄からなる表形式のものであるが、男女別と「休学ノ理由」及びその人数のみを挙げる。

男

「家事ニ従事スル者ナキ為メ」(1名)「病氣」(1名) 計2名

女

「家事手伝ノ為メ」(1名) 計1名

不就学児童

注…本項目は「不就学事由」「住所」「男女別」「氏名」「生年月日」の欄からなる表形式のものであるが、男女別と「不就学事由」及びその人数のみを挙げる。

女

「能力未ダ発達セス」(3名)「能力未ダ発達セサル為メ」(1名)「不具者」(1名)「啞者」「相浜ニ転居」(1名)

男

「幼年ノ為メ寄宿出来ザル為メ」(1名)「能力未ダ発達セス」(1名)

本表外就学児童ニシテ内地人(本籍地取調中) 東白浦住男(氏名省略)(従来

落合小学校在学者) 大正三年二月二十五日より入学セシニヨリ目下出席児童ハ都合十五名ナリ。

附録第八号

東白浦土人教育所

児童通学行程表

注…本表は「行程」「住所」「男女別」「氏名」「生年月日」の欄からなるが、「生年月日」は全て空欄になっていたため、ここでは「氏名」および「生年月日」の行を割愛した。

行程	住所	男女別
一里三十町	箱田	男
一里三十町	箱田	〃
一里十五町	真縫	〃
〔空白〕	東白浦	〃
〔空白〕	〃	〃
一里三十町	箱田	〃
一里十五町	真縫	〃
〔空白〕	東白浦	〃

注…末尾の「内地人」児童に関する記述は、原資料では表の枠外に相当する位置に記載されているが、「入学」の文字と「東白浦」との間に横線を引く等、表に擬した体裁になっていることから、表に含めるかたちで記載した。

外二内地人一名二月六日 ヨリ入学	〃	一里十五町	〔空白〕	一里三十町	〔空白〕	〔空白〕	〔空白〕	〃	一里三十町
東白浦	〃	真縫	東白浦	箱田	〃	〃	東白浦	〃	箱田
男 從來落合小学校ニテ就学	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	女

[illegible]

附録第十号

東白浦土人教育所

児童ノ学力比較表

注…本表は省略した。

附録第十一号 東白浦土人教育所

備品現在簿

品目 児童用机

大正元年十二月十七日 番号 自一番 至十三番 十三個

品目 児童用腰掛

大正元年十二月十七日 番号 自一番 至十三番 十三個 一脚ハ送附ノ途中

破損シ来リ使用ニ堪ヘス

品目 教員用机

大正元年十二月十七日 番号 自一番 至二番 二個

品目 教員用椅子

大正元年十二月十七日 自一番 至二番 二個

採暖用ストーフ

大正元年十二月十七日 一番 二番 二個

ストーフ用火箸

大正元年十二月十七日 二箸

バケツ

大正元年十二月十七日 二個

宿直室用器具

受年月日	品目	数量	備考
大正元年十二月四日	台鍋	二個	
〃	鉄鍋	一〃	
〃	茶碗	二〃	
〃	皿	大二〃	
〃	皿	小二〃	
〃	洗面器	二〃	
〃	柄杓	一〃	
〃	ランプ	二組	
〃	湯沸	一個	
〃	十能	一〃	
〃	五徳	一〃	
〃	茶盆	一〃	
〃	湯呑茶碗	一五〃	
〃	薄口	一〇〃	
(空白)	急須	一〃	
大正二年一月三十日	鐺	一〃	
大正二年三月十四日	スコップ	一〃	

教授用備品

受年月日	品目	数量
	修身掛図	一
	全	一
	尋常小学読本一	一
	全二	一
	全修身	一
	尋常小学修身教師用	一
	尋常小学修身児童用二	一
	尋常小学読本二	一
	尋常小学読本三	一
	小学珠算教師用	一
	尋常小学書方乙種手本一	一
	全二	一
	小学校体操提要	一
大正二年二月	ストーフ	一
大正二年五月	時計	一
大正二年一月	肖像画	一

附録第十五号 東白浦土人教育所

注…本項は「第十五号」とあるが、前後の号数から十二号に相当すると推測される。

教授ニ使用スルアイヌ語

邦人語	アイヌ語
十二五ヲ加ヘヨ	ドフ イカシマ ワンベ アンテ アシ シネ コタマ
二十カラハヲ減ジテ幾何残ルカ	トクンク オロハー トペシヤンペ ヌフテ ヘンバノ エカヘマ
何レガ大ナルカ	ヘマノボロ
何レガ幾何大ナルカ	ヘマノホロヲ
数	イビスケ
数フ	ピスケ
今一度数ヘヨ	ナアスイピスケ

附録第十三号

〔小田寒教育所〕時間表

注…本項目は「時間表」とあるのみだが、前後のつながりなどから教育所名を補った。

曜	第一時	第二時	第三時	第四時	第五時
土	唱歌	〃	〃	〃	〃
金	修身	〃	〃	〃	〃
木	唱歌	〃	〃	〃	〃
水	修身	〃	〃	〃	〃
火	唱歌	〃	〃	〃	〃
月	修身	読方	算術	書方	体操 遊戯

当分ノ内正式ノ体操遊戯ヲ欠ク

附録第十四号

小田寒土人教育所

学齢児童表 大正三年三月調

注…表は省略した。表は男女別で氏名、生年月日が記載されており、男9名、女4名である。

退学児童ナシ

休学児童ナシ

不就学児童〔省略…女1名〕

注…女子一名の氏名と生年が記載されているが、ここでは省略した

附録第十五号 小田寒土人教育所

児童通学行程表

注 氏名は全てアルファベットに置き換えた。原資料にはこのほか「生年月日」の欄があるが、ここでは割愛した。

行程	住所	男女別	氏名
一里十町	学校所在地	男	A
	北板田	〃	B
	学校所在地	〃	C
	〃	〃	D
	〃	〃	E
	〃	〃	F
	〃	〃	G
	〃	〃	H
一里十町	北板田	〃	I
	学校所在地	女	J
	学校所在地	女	K
	学校所在地	女	L
	学校所在地	女	M

附録第十六号

小田寒土人教育所

自大正二年七月 至全三年二月 児童出席欠席数月別調

注…生徒の氏名は全てアルファベットとした。原資料にはこのほか生徒の「生年月日」の項目もあるが、ここでは割愛した。

「備考」の記述についても、生徒の氏名は割愛し、表中の対応するアルファベットで示した。

また氏名に付随して親族に関する情報が略述されている部分については割愛した。

欠出	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	性体	氏名
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	男	A
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	B
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	C
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	D
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	E
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	F
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	G
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	H
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	I
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	女	J
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	K
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	L
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	M

備考 一、十二月当部落始メ数ヶ所ノ熊送ノ為メ加之校舎ノ都合上不得止全月間正式ノ授業ヲ施シ得サリキ

二、〔G〕ハ大正三年一月入学 〔M〕ハ大正二年八月一日入学
三、六月ヨリ十一月ニ亘リ授業日数ノ多クハ規程ヨリ少ナキハ土人産業ノ為メ
出稼等ニ依ル

附録第十七号 小田寒土人教育所
児童ノ学力比較表

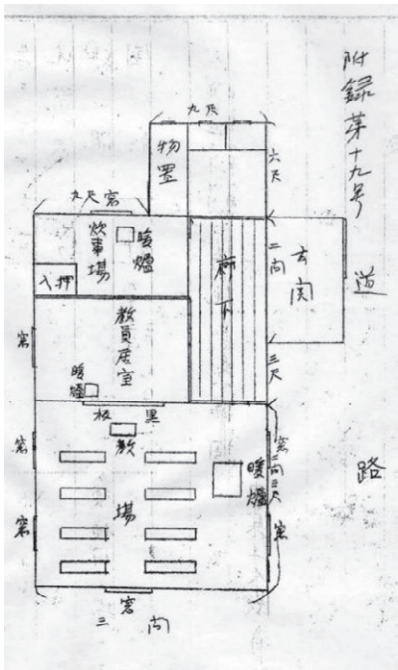
注：表は省略した。表は「学力比較」「男女別」「氏名」「生年月日」の各欄からなり、男9名、女4名が記載されている。

品目	員数	受入年月日	備考
机腰掛	九組		
教卓	一ケ		
椅子	ニケ		
時鈴	一ケ		
黒板	一ケ		
黒板拭	一ケ		
暖炉	ニケ		内一ケ破損用ニ耐ヘス 暖炉一ナシ
バケツ	一ケ		
鍋	一ケ		
火箸	一揃		
硯箱	一ケ		硯ナシ

附録第十八号
備品現在簿 小田寒土人教育所

附録第十九号

五分志シランプ	一ケ		ホヤナシ
洗面器	一ケ		
湯沸	一ケ		破損用ニ耐ヘス
国旗	一對	大正三年二月九日	



榎茸平家 建坪十五坪 外ニ玄関一坪半 便所及物置一坪半 屋後ノ空地約
三百坪ヲトシ学校園及運動場ニ充ツル見込
備考 大正二年十二月二十五日 検査済 同日移転

附録第二十号 授業時間割 内渚土人教育所

土	金	木	水	火	月	曜／時
書方	〃	〃	〃	〃	読方	第一時
修身	〃	〃	〃	〃	算術	第二時
	〃	〃	〃	〃	書方	第三時
	〃	〃	〃	〃	体操	第四時
	〃	〃	〃	〃	唱歌	第五時

(附録第二十一号)

内渚土人教育所

学齡児童表 大正三年三月調

注…本項には番号が付されていないが、前後から推測して補った。

本項には「出席児童」「退学児童」の表があるが、これらの表は省略した。

就学児童中出席児童

注…「出席児童」の表は、「住所地」「寄宿地」「男女別」「氏名」「生年月日」の各欄からなる。住

所地「内渚」男8名、女5名、住所地「相浜」寄宿地「内渚」男1名、女1名、計十五名で

ある。

退学児童

注…「退学児童」の表は、「氏名」「生年月日」等の欄からなるが、ここでは、これらの項目は省

略し、「理由」及び男女の別のみ記載した。

理由

露礼村ヨリ寄宿シタルモ家事手伝ノ為メ退学 男

家事手伝ノ為メ退学 女

魯礼村ヨリ寄宿シタルモ家事都合上九月退学 女

大正二年七月 家事手伝ノ為メ退学 女

結婚ノ為メ 大正二年九月退学 女

不就学児童 ナシ

休学児童 ナシ

通学児童 ナシ

附録第二十二号
内渚土人教育所
児童出席欠席月別調

欠出	欠出	欠出	欠出	欠出	欠出	欠出	欠出	欠出	欠出	欠出	欠出	欠出	欠出	欠出	欠出	欠出	欠出	欠出	欠出	欠出	一月
			二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二月
			一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	三月
			二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	四月
	一六	一六	一三	一五	一六	一五	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	五月
	一七	一八	一八	一八	二六	一六	一七	一八	二六	一八	一七	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	六月
	一四	一四	一三	一四	一四	二二	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一三	一四	一四	一四	七月
一二	一二	一二	三八	一〇	一二	三八	五六	一二	一〇	一二	三八	一二	一二	一二	一〇	一二	三八	一二	一二	一二	八月
一四	一四	一四	二二	一四	一四	二二	三一	一四	一四	一四	二二	一四	一四	一四	二二	一四	二二	一四	一四	一四	九月
一八	一七	一八	退学	一八	一六	三五	退学	一八	一八	一八	退学	一八	一八	一八	一六	一八	退学	一八	一八	一八	十月
二五	二六	二六		二四	二五	退学		二六	二六	二六		二六	二六	二六	二四	二六		二五	二五	二五	十一月
一二	一三	一三		一三	一二			一三	一三	一三		一三	一二	一三	一二	一三		一二	一二	一二	十二月

備考 十二月ハ校舍移転ニ付休業

(附録第二十三号)
児童ノ学力比較表

注…本項には番号が付されていないが、前後から推測して補った。
本項の表は省略した。表は「成績」「男女別」「氏名」「生年月日」の欄よりなる、男9名、女6名についてのものである。

附録第二十四号
備品現在調 内渚土人教育所

受入年月日	品名	番号	数量	備考
大正元年十二月十四日	机	自一号至十号	一〇	児童用
〃	腰掛	自一号至十号	一〇	全
〃	机	一号	一	教師用
〃	椅子	一号 二号	二	全
〃	黒板	一号	一	
〃	ストーフ		一	教室用
大正三年二月十日	ストーフ		一	教室用
〃	ストーフ		一	

附録第二十五号

時間表 大谷土人教育所

土	金	木	水	火	月	曜日／時間
修身	〃	〃	〃	算術	修身	第一時
土語訳解	〃	〃	〃	〃	読本	第二時
書方	土語訳解	唱歌 体操	〃	〃	土語訳解	第三時
	唱歌 体操	〃	書方	唱歌 体操	書方	第四時

体操科	一時半間	国語科			
唱歌科	一時半間	土語訳解	綴方	書方	読方
算術	四時間				
修身科	二時間	土語訳解	五時間	一時間	四時間

合計二十二時間
備考 本表第二学期ヨリヲ示ス

学齡児童表 大正三年三月調
就学児童中出席児童氏名

注…本表は省略した。表は、「体性」（性別）、「氏名」「年齢」の欄からなり、男8名、女4名が記載されている

退学者〔省略…氏名、年齢〕

注…原資料には「退学ノ事由」「体性」「氏名」「年齢」の各欄があるが、ここでは「氏名」「年齢」を省略し、「退学の事由」と性別のみを記載した。

家事手伝トシテ 男

内渕部落へ転住 男

家事上ノ都合ニ依リ 女

休学者ナシ

不就学者 ナシ

土	金	木	水	火	月	曜日／時間
〃	〃	〃	〃	〃	全	
修身	算術	算術	修身體操	算術	修身唱歌	第一時
全	全	全	甲	乙	全	
読方	読方	算術	読方	書方	読方	第二時
全	全	甲乙	甲乙	甲乙	甲乙	
書方	書方	書方書方	読方書方	書方読方	綴方書方	第三時
全	全	全	甲	全	甲	
体操	綴方	唱歌体操	綴方	唱歌	書方	第四時

備考 甲トアルハ二年生ニシテ乙ハ一年児童トス全ハ一、二年共通ノコトヲ云フ

各科統合表

修身科 二時間

算術科
四時間

唱歌科 二時間

体操科 二時間

甲二三時間 乙二〇時間

読方	甲	五時間	乙	四時間
読方				

綴方 甲 三時間

書取	甲	五時間	乙	六時間
1	1	1	1	1
2	2	2	2	2
3	3	3	3	3
4	4	4	4	4
5	5	5	5	5
6	6	6	6	6
7	7	7	7	7
8	8	8	8	8
9	9	9	9	9
10	10	10	10	10
11	11	11	11	11
12	12	12	12	12
13	13	13	13	13
14	14	14	14	14
15	15	15	15	15
16	16	16	16	16
17	17	17	17	17
18	18	18	18	18
19	19	19	19	19
20	20	20	20	20
21	21	21	21	21
22	22	22	22	22
23	23	23	23	23
24	24	24	24	24
25	25	25	25	25
26	26	26	26	26
27	27	27	27	27
28	28	28	28	28
29	29	29	29	29
30	30	30	30	30
31	31	31	31	31
32	32	32	32	32
33	33	33	33	33
34	34	34	34	34
35	35	35	35	35
36	36	36	36	36
37	37	37	37	37
38	38	38	38	38
39	39	39	39	39
40	40	40	40	40
41	41	41	41	41
42	42	42	42	42
43	43	43	43	43
44	44	44	44	44
45	45	45	45	45
46	46	46	46	46
47	47	47	47	47
48	48	48	48	48
49	49	49	49	49
50	50	50	50	50
51	51	51	51	51
52	52	52	52	52
53	53	53	53	53
54	54	54	54	54
55	55	55	55	55
56	56	56	56	56
57	57	57	57	57
58	58	58	58	58
59	59	59	59	59
60	60	60	60	60
61	61	61	61	61
62	62	62	62	62
63	63	63	63	63
64	64	64	64	64
65	65	65	65	65
66	66	66	66	66
67	67	67	67	67
68	68	68	68	68
69	69	69	69	69
70	70	70	70	70
71	71	71	71	71
72	72	72	72	72
73	73	73	73	73
74	74	74	74	74
75	75	75	75	75
76	76	76	76	76
77	77	77	77	77
78	78	78	78	78
79	79	79	79	79
80	80	80	80	80
81	81	81	81	81
82	82	82	82	82
83	83	83	83	83
84	84	84	84	84
85	85	85	85	85
86	86	86	86	86
87	87	87	87	8

国語

書取

甲 五時間 乙

六時間

時間

附錄第二十七號

大谷土人教育所

児童出欠席月別表

欠出	欠出	欠出	欠出	欠出	欠出	欠出	欠出	欠出	欠出	欠出	欠出	欠出	欠出
								○				二三	一月
〇二三	〇二三	〇二三	〇二三	〇二三	〇二三	〇二三	〇二三	二三〇	〇二三	一二〇	四一八	〇二三	二月
〇二	〇二	〇二	〇二	一〇	〇二	〇二	〇二	〇二	〇二	〇二	〇二	〇二	三月
	〇二五	〇二五	三二	一四	〇二五	〇二五	五二〇	〇二五	五二〇	〇二五	五二〇	五二〇	四月
	〇二七	〇二七	二七〇	〇二七	〇二七	〇二七	一八九	〇二七	三二四	〇二七	五二二	五二二	五月
	〇二三	〇二三	二二	〇二三	〇二三	〇二三	一六七	〇二三	五二八	〇二三	三二〇	三二〇	六月
	〇二六	〇二六	〇二六	二二四	一二五	〇二六	〇二六	〇二六	二二四	一二五	一四二	一四二	七月
	〇二五	二二三	一四二	一五〇	一四	〇二五	〇二五	二二三	二二三	一四二	四二二	四二二	八月
	〇二五	〇二五	〇二五	二四一	三二二	〇二五	二二三	四二二	五二〇	三二二	四二二	四二二	九月
〇二六	〇二六	〇二六	〇二六	二五一	一四二	〇二六	七一九	〇二六	一五一	一五一	一〇六	一〇六	十月
〇二五	〇二五	〇二五	〇二五	二五〇	〇二五	〇二五	〇二五	〇二五	〇二五	〇二五	一五〇	一五〇	十一月
〇二	〇二	〇二	〇二	二二〇	〇二	〇二	〇二	〇二	二二〇	二二〇	〇二	〇二	十二月
L	K	J	I	H	G	F	E	D	C	B	A	氏名	

附録第二十八号 大谷土人教育所
児童学力比較表

注…本項の表は省略した。表は「学力比較」「体性」「性別」「氏名」「年齢」の欄よりなる、男8名、女4名についてのものである。

来学期就学児童見込数

男 一人

女 三人

附録第二十九号

備品現在調 大谷土人教育所

受入年月日	品名	番号	数量	備考
大正元年十二月五日	机	自一 至六号	六	生徒用
〃	腰掛	自一 至六号	六	全
〃	教卓	一号	一	教師用
〃	椅子	一号	二	全
〃	黒板	一号	一	
〃	計数器	一号	一	
大正二年十二月	ストーフ	一号	一	破損
〃	煙筒		七	〃
〃	曲		三	〃
大正二年八月六日	時計		一	
〃	書箱		一	

図書

受入年月日	品名	番号	数量	備考
大正二年二月	修身掛図		一	
全年六月	樺太法令類集		一	
大正元年十二月	読本ノ二		一	
〃八月八日	読本ノ一		一	
大正三年三月	算術教師用一		一	
〃	算術教師用二		一	

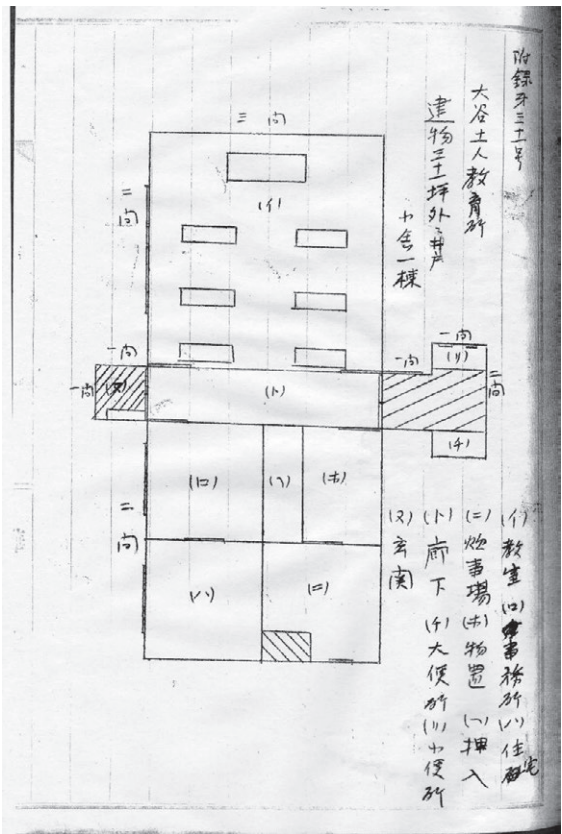
大正三年三月十一日	テーブル掛		一	
〃	曲		四	
〃	煙筒		一〇	
〃二十九日	ストーフ			
〃	門札		一	
〃	樽		一	
〃	水樽		一	
〃	茶盆		一	茶碗破損
大正元年十二月	硯箱		一	破損
大正二年八月六日	洗面器		一	
〃	ランフ		一	
〃	バケツ		三	内一ヶ破損
〃	十能		一	
〃	火等		一	
〃	五徳		一	
〃	ヤクワン		一	
〃	鉄瓶		一	
〃	火鉢		一	

附録第三〇号
土人語訳解
題目 雪ダルマ

日本語	アイヌ語
ミンナ デ ユキダルマヲ ツクリ	イツシンニ オバス アイヌ アンカラ
モウ コンナ ニ 大キク ナリマシタ	タニナハカネ ポロ アンカラヘマカ
マダ 小サイカラ モウスコシ 大キク	スイハチコ タニ ナハポノ
シマセウ	ポロアンカラ
ヤット カラダ ガ デキマシタ	ライ ニトバキ カラ ヘマカ
コレカラ アタマヲ ツクリマセウ	タニ サバキ アンカラ
コレデ アタマモ デキマシタ	タニ サバキ カラヘマカ
コレガ ハナデ コレガ ロデス	タンペ エトプイ タンペ チャラハ
ダルマサンノ目ハ大キイカラ	オバス アイヌ シキポロ
大キナメヲツケマセウ	ポロシキ アンカラ
20 + 9 =	ツクンクツツ シネプシヤンペ アヌフ ヘンパノアン
20 + 10 =	ツクンクツツ ワンペコタマ ヘンパノアン

算術

附録第三十一号



参考文献

池田裕子「樺太の先住民教育」『Arctic Circle』九三(一般財団法人北方文化振興協会、二〇一四)
小川正人『近代アイヌ教育制度史研究』(北海道大学図書刊行会、一九九七)
鈴木仁・出村文理「南樺太における島居龍蔵の先住民調査と復命書 附「東海岸アイヌ族其他種族二関スル人類学的調査復命書」翻刻」『島居龍蔵研究』第三号(島居龍蔵を語る会、二〇一五)
田村将人「樺太庁による「土人漁場」を中心とした先住民政策の概要」『北方の資源をめぐる先住者と移住者の近現代史―北方文化共同研究報告―』(北海道開拓記念館、二〇一〇)
田村将人「異民族に関する法律作成についてのサハリン島武官知事官房ファイルに見るピウスツキの事績」沢田和彦編『ポーランドの民族学者ブロニスワフ・ピウスツキの生涯と業績の再検討』(埼玉大学教養学部・文化科学研究科、二〇一三)

Inspection Report on the Lifestyle and Education of Sakhalin Ainu Villages

TAMURA Masato

The material reprinted here is a report by Zenzachi YAMAMOTO, a civil servant employee at Karafuto Government based on his business trips that took place from 1913 to 1914, which was a part of the Sakhalin Ainu Inspection Reports authored by Ken OGASAWARA et al. kept in the collection of Institute of Folklore Studies, Seijo University. While there are a very small number of preserved official documents from the Karafuto Government, which is not limited to policies on

indigenous people, this particular text was thought to have been copied into a number of Karafuto Government's official records retained by Kunio YANAGITA (1875-1962), who was a bureaucrat and folklorist, despite its unknown origin. As this text is the only remaining source that contains the entire detail of the operation of elementary schools for indigenous children, an institution targeting Sakhalin Ainu children, we have decided to reprint it in its entirety.